

市民の声を施策に反映

**「まちづくりネットモニター」  
を実施しました**

令和元年 5 月 27 日

(ネットモニターに関すること)

郡山市政策開発部広聴広報課

担当：上田 利実 TEL：924-2061

(第 12 回調査内容に関すること)

郡山市農林部林業振興課

担当：布施 浩一 TEL：924-2231

まちづくりネットモニター（第 12 回調査）の結果がまとまりました。

調査概要（詳細は別紙のとおり）

テーマ	郡山市の森林・林業について
目的	森林に期待する役割や、新たな制度などの近年の状況変化に対応する必要がある、森林・林業に関する意識を把握し、今後の施策に活かすため
期間	平成 31 年 2 月 26 日(火)～3 月 7 日(木) (10 日間)
回答方法	専用ウェブサイトによる回答
モニター数	340 名(男性 148 名 女性 192 名)
回答者数	310 名(男性 139 名 女性 171 名) (回答率：91.2%)
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林に行く機会は、ここ 1 年「1～2 回くらい」が半数を占め、森林に触れ合う機会が少ない。</li> <li>・これまで郡山市の森林公園には、約 7 割の方が訪れたことがある。</li> <li>・森林（山・森・林・森林公園）に期待されている役割は、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する役割」や「山崩れ、洪水などの災害を軽減する役割」がそれぞれ 6 割以上となっている。</li> <li>・新たな制度や工法である「森林認証」や「CLT」についてあまり知られていないため、新たな木造需用を創出するために、国、県等と連携し「森林認証」や「CLT」について、普及活動を進めていく必要がある。</li> <li>・市内の森林（山・森・林・森林公園）・林業に関し、市が特に力を入れて欲しいこと。 「森林の育成、保育」「森林環境学習など子供たちへの教育の充実」</li> </ul>

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。今回は、平成 30 年度第 12 回目の調査となります。

平成30年度まちづくりネットモニター第12回調査結果  
テーマ「郡山市の森林・林業について」

郡山市では、水源のかん養（※1）や地球温暖化防止などの多面的機能発揮のための森林整備など、森林・林業に関する様々な取組を行っており、森林に期待する役割や、新たな制度など近年の状況変化に対応する必要があります。

つきましては、市民の皆さんの森林・林業に関する意識を把握し、今後の効果的な施策展開に活用するため、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。  
(林業振興課)

### 調査概要

○調査期間	平成31年2月26日(火)～3月7日(木) (10日間)
○回答方法	専用ウェブサイトから回答を送信する。
○モニター数	340名 (男性 148名 女性 192名)
○回答者数	310名 (男性 139名 女性 171名)
○回答率	91.2%

### 【考 察】

- ・森林に行く機会は、ここ1年「1～2回くらい」が半数を占め、森林に触れ合う機会が少ない。
- ・これまで郡山市の森林公園には、約7割の方が訪れたことがある。
- ・森林（山・森・林・森林公園）に期待されている役割は、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する役割」や「山崩れ、洪水などの災害を軽減する役割」が、それぞれ6割以上となっている。
- ・新たな制度や工法である「森林認証」(※2)や「CLT」(※3)についてあまり知られていないため、新たな木造需用を創出するために、国、県等と連携し「森林認証」や「CLT」について、普及活動を進めていく必要がある。
- ・市内の森林（山・森・林・森林公園）・林業に関し、市が特に力を入れて欲しいこと。「森林の育成、保育」「不法投棄など森林を破壊する行為の取り締まりの強化」「森林環境学習など子供たちへの教育の充実」

### 【分 析】

- ・郡山市の市域の半分以上が森林ということを知っている。(17.1%)
- ・1年間、森林へ行った頻度(年に1～2回くらい 46.8%)
- ・森林の意義
  - ・春夏秋冬を彩る(72.3%)
  - ・二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を低減してくれる(68.7%)
- ・CLTという言葉を知っている。(17.4%)・森林認証という言葉を知っている。(11.9%)
- ・森林認証のロゴマークを見たことがある(8.7%)
- ・郡山市内の今後の森林について
  - ・放置することなく伐採と植林を繰り返すべき(48.4%)
  - ・水源かん養、災害防止などの公益的機能が発揮されるよう、たとえ経済効率が低くても整備すべき(39.0%)
- ・市に特に特に力を入れて欲しい事業
  - ・森林の育成、保育(51.0%)
  - ・不法投棄など森林を破壊する行為の取り締まりの強化(50.6%)
  - ・森林環境学習など子供たちへの教育の充実(36.1%)

※1 水資源貯留・水質浄化・洪水緩和をする機能

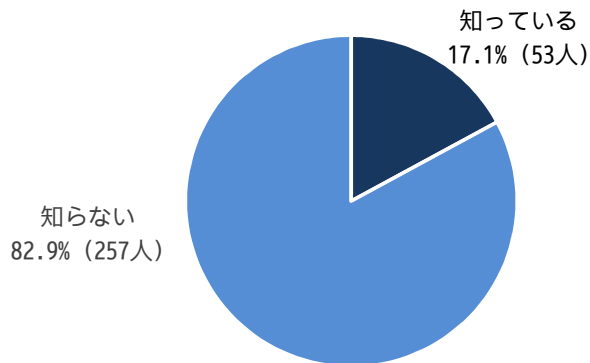
※2 森林認証とは、認証機関が一定の基準に基づき、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを審査・認証し、それらの森林から生産された木材・木材製品を分別し表示・管理することにより、消費者の選択的な購入を通じて、持続可能な森林経営を支援する取組

※3 CLT(直交集成板)とは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネルであり、既に欧米を中心に中高層建築物等に利用されています。我が国においても、中高層建築物等へのCLTの活用による新たな木材需要の創出が期待されています。

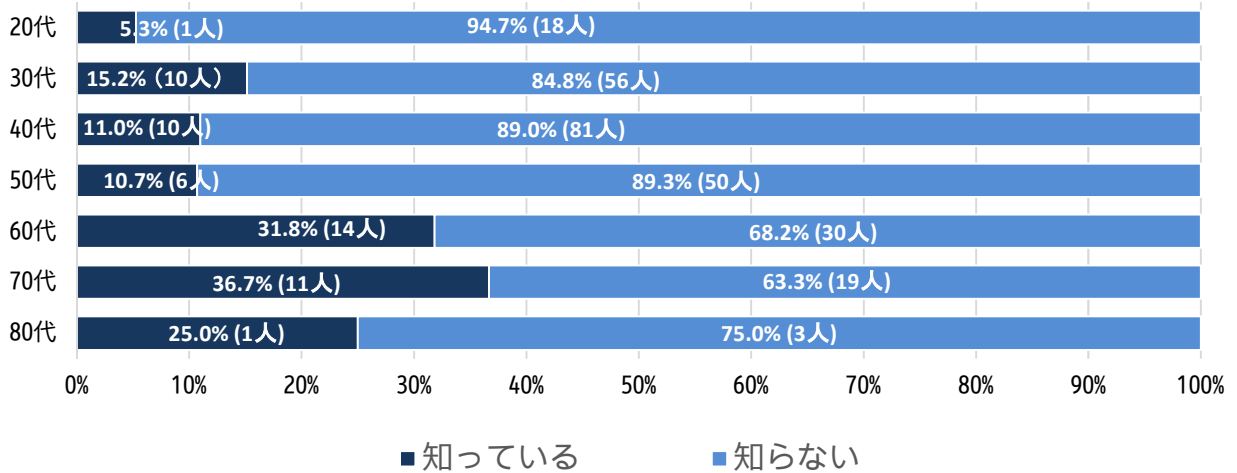
【森林について】

問1 郡山市の森林面積は39,942haで、市全体の約53%を占めていますが、市域の半分以上が森林ということを知っていますか？（1つ選択）

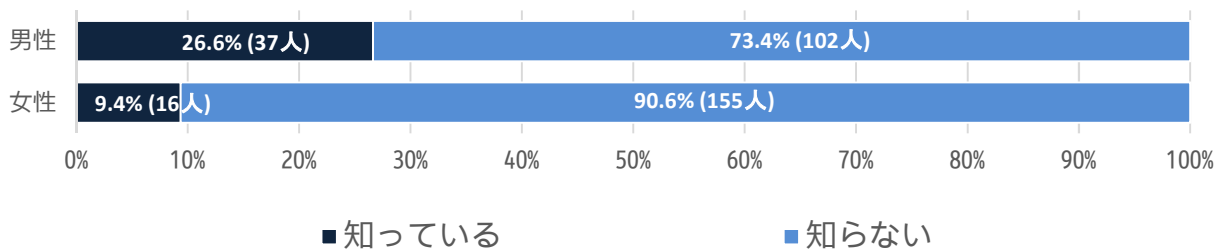
(回答者：310人)



年代別



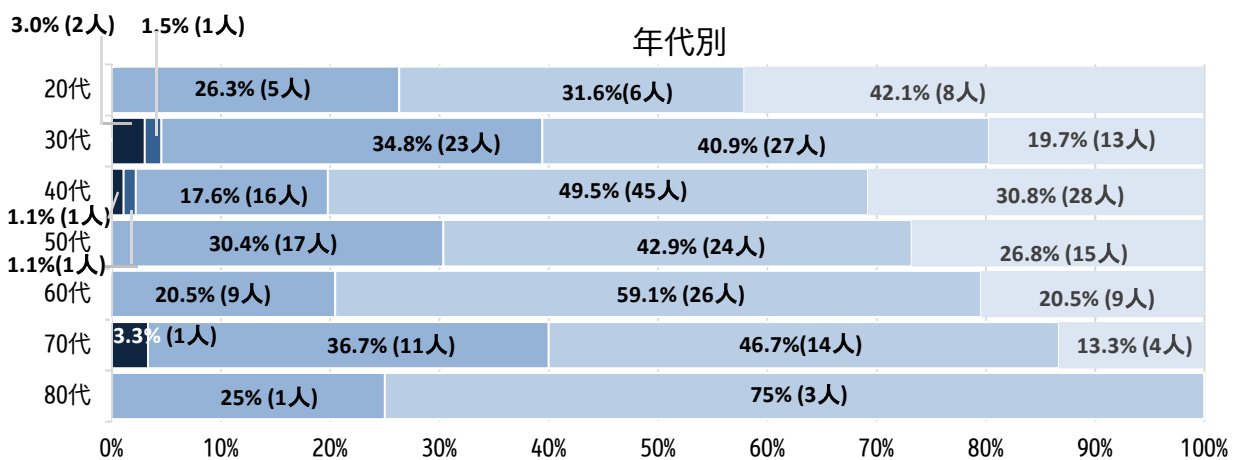
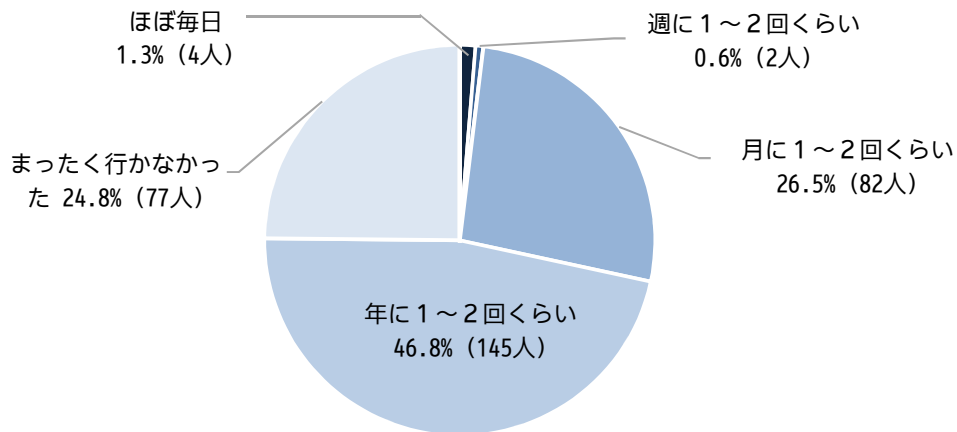
性別



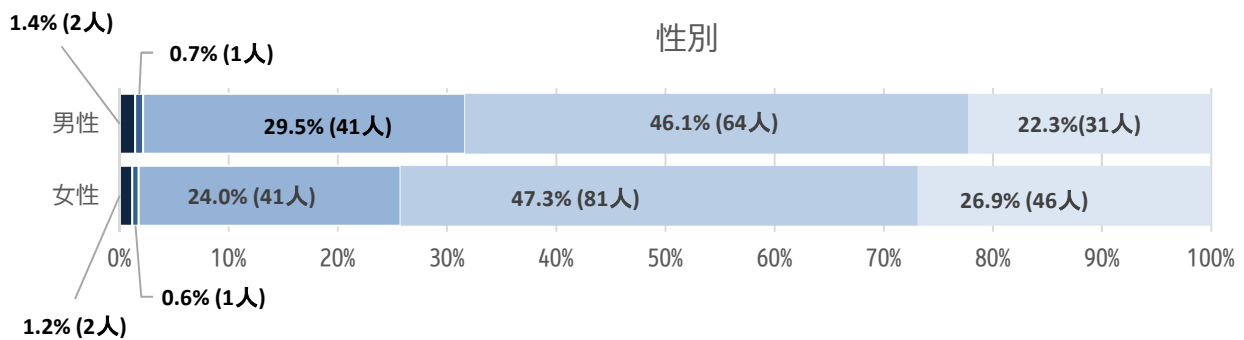
郡山市の森林面積が、市域の半分以上占めていることを、約8割の方に知られていない。年代別では、60代以上には、比較的知られているが、20代～50代では知られていない。性別では、男性が女性より17.2ポイント高かった。

問2 この1年間で、どのくらい森林（山・森・林・森林公園など）に行きましたか？  
（1つ選択）

（回答者：310人）



■ ほぼ毎日 ■ 週に1~2回くらい ■ 月に1~2回くらい ■ 年に1~2回くらい ■ まったく行かなかった



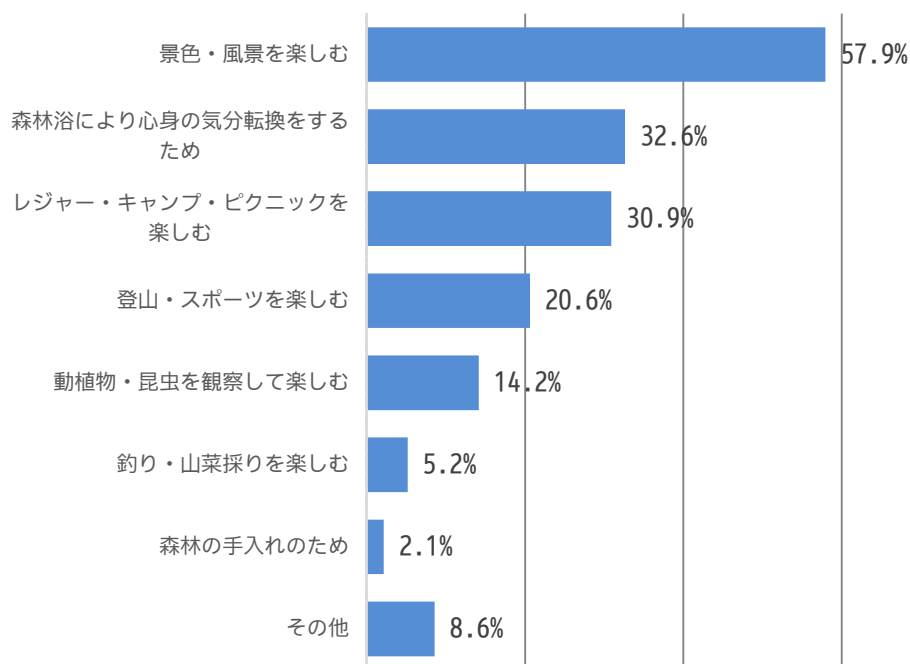
■ ほぼ毎日 ■ 週に1~2回くらい ■ 月に1~2回くらい ■ 年に1~2回くらい ■ まったく行かなかった

森林に行く機会は、「年に1~2回くらい」が約5割で最も多い。  
年代別でも、各世代において「年に1~2回くらい」が最も多い。

問3 問2で「ほぼ毎日」「週に1～2回くらい」「月に1～2回くらい」「年に1～2回くらい」を選択した方にお伺いします。主にどのような目的で森林（山・森・林・森林公園）に行きましたか？（複数選択）

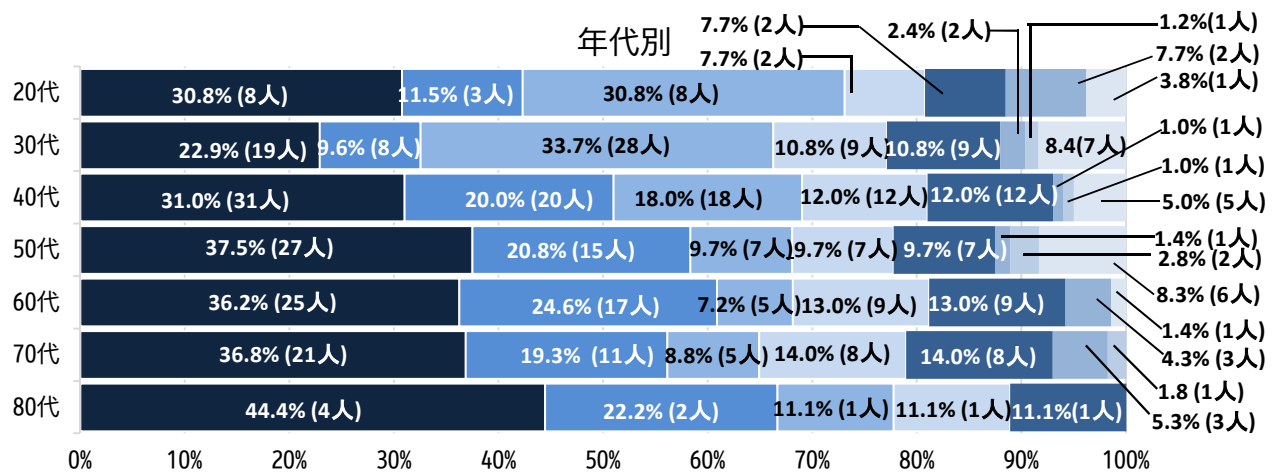
（回答者：233人）

選択肢	回答数
景色・風景を楽しむ	135人
森林浴により心身の気分転換をするため	76人
レジャー・キャンプ・ピクニックを楽しむ	72人
登山・スポーツを楽しむ	48人
動植物・昆虫を観察して楽しむ	33人
釣り・山菜採りを楽しむ	12人
森林の手入れのため	5人
その他	20人

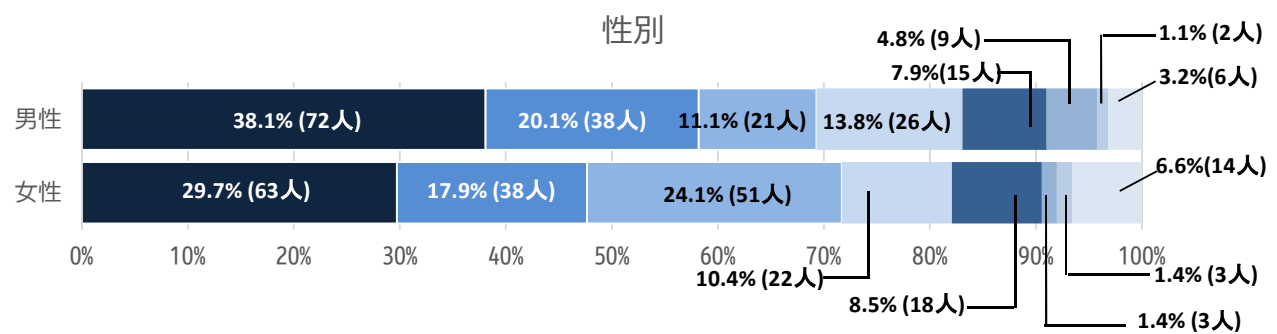


#### 「その他」の主な意見

- ・家のまわりが森林
- ・職場
- ・自宅が山間部



- 景色・風景を楽しむ
- 森林浴により心身の気分転換をするため
- レジャー・キャンプ・ピクニックを楽しむ
- 登山・スポーツを楽しむ
- 動植物・昆虫を観察して楽しむ
- 釣り・山菜を採りを楽しむ
- 森林の手入れのため
- その他



- 景色・風景を楽しむ
- 森林浴により心身の気分転換をするため
- レジャー・キャンプ・ピクニックを楽しむ
- 登山・スポーツを楽しむ
- 動植物・昆虫を観察して楽しむ
- 釣り・山菜を採りを楽しむ
- 森林の手入れのため
- その他

「景色・風景を楽しむ」が57.9%で最も多く、次いで「森林浴により心身の気分転換をするため」(32.6%)、「レジャー・キャンプ・ピクニックを楽しむ」(30.9%)の順であった。

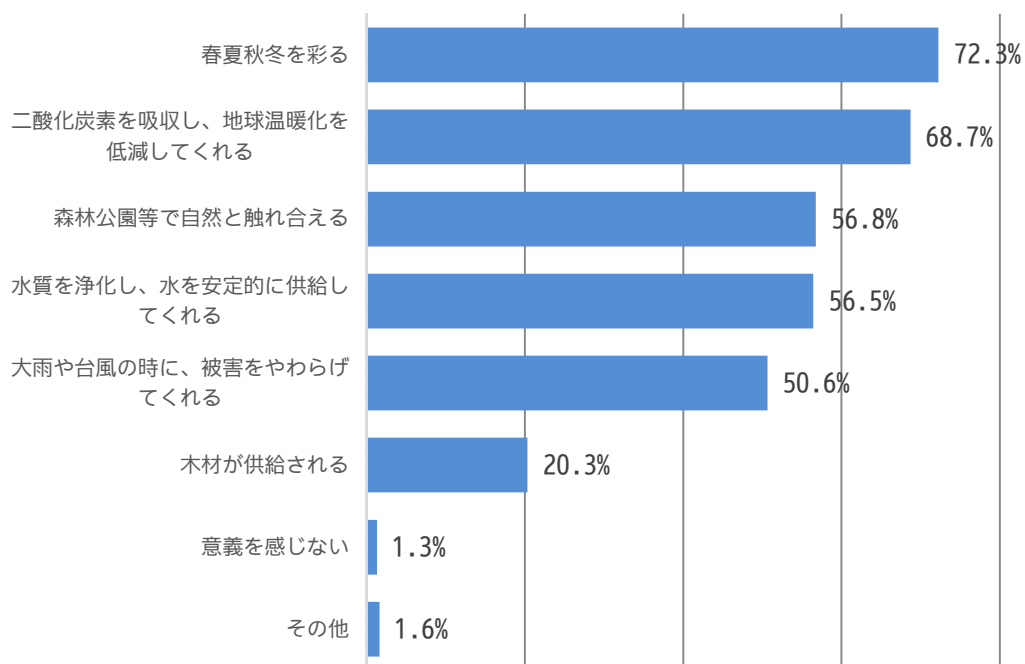
年代別では、20代、30代が「レジャー・キャンプ・ピクニックを楽しむ」が最も多く、40代から80代では、「景色・風景を楽しむ」が最も多い。

### 【森林の意義】

問4 日常生活の中で、森林（山・森・林・森林公園など）にどのような意義を感じますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
春夏秋冬を彩る	224人
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を低減してくれる	213人
森林公園等で自然と触れ合える	176人
水質を浄化し、水を安定的に供給してくれる	175人
大雨や台風の際に、被害をやわらげてくれる	157人
木材が供給される	63人
意義を感じない	4人
その他	5人



#### 「その他」の主な意見

- ・動物の保護
- ・リフレッシュできる
- ・癒し

「春夏秋冬を彩る」が72.3%で最も多く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を低減してくれる」（68.7%）、「森林公園等で自然と触れ合える」（56.8%）の順であった。

木材供給に意義を感じる人は、5分の1にとどまった。

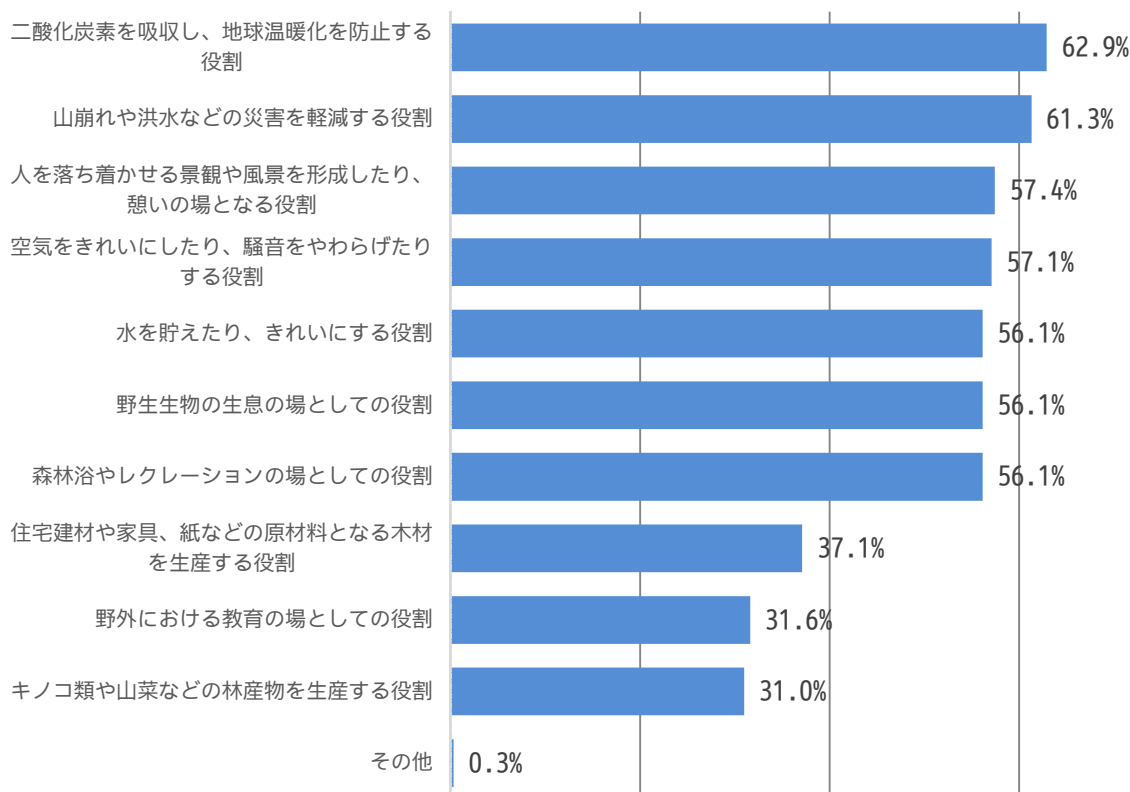
森林に対して、意義を感じない人は、わずか1.3%で、多数の人が森林に意義を感じていることが伺える。

## 【森林に期待する役割】

問5 森林（山・森・林・森林公園など）には、様々な役割がありますが、どのような役割を期待しますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する役割	195人
山崩れや洪水などの災害を軽減する役割	190人
人を落ち着かせる景観や風景を形成したり、憩いの場となる役割	178人
空気をきれいにしたり、騒音をやわらげたりする役割	177人
水を貯えたり、きれいにする役割	174人
野生生物の生息の場としての役割	174人
森林浴やレクリエーションの場としての役割	174人
住宅建材や家具、紙などの原材料となる木材を生産する役割	115人
野外における教育の場としての役割	98人
キノコ類や山菜などの林産物を生産する役割	96人
その他	1人



### 「その他」の主な意見

- ・米作りのためのきれいな水の提供

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する役割」が62.9%で最も多く、次いで「山崩れや洪水などの災害を軽減する役割」（61.3%）、「人を落ち着かせる景観や風景を形成したり、憩いの場となる役割」（57.4%）の順であった。

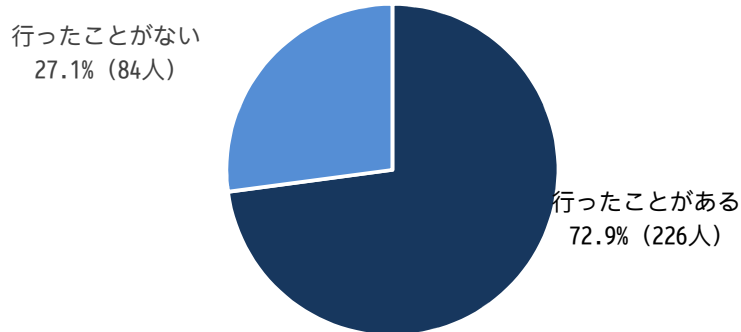
半数以上の人々が、「地球温暖化防止」や「災害の軽減」等の役割について期待しており、森林の公益的機能についての重要性はかなり周知されていることが伺える。



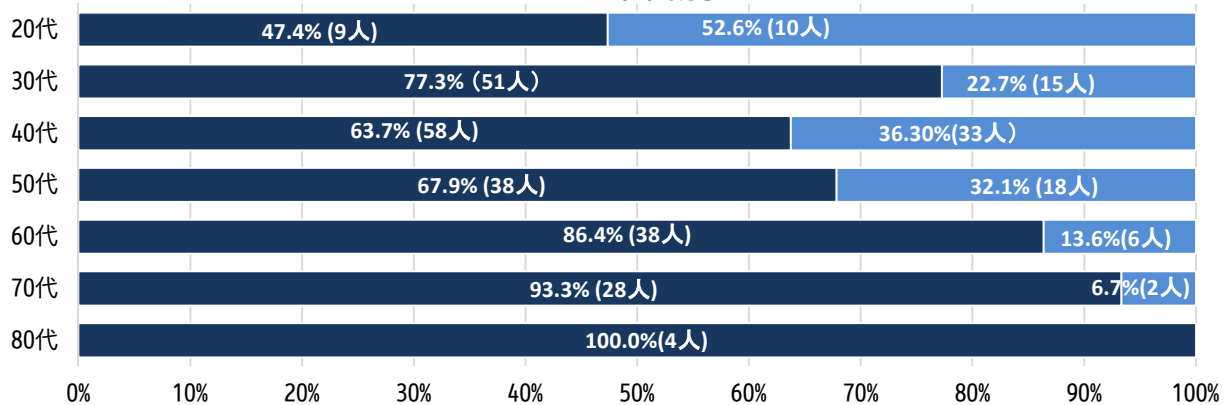
【市の森林・林業等に関する活動への参加】

問6 あなたは、郡山市の森林公園に行ったことがありますか？（1つ選択）

（回答者：310人）

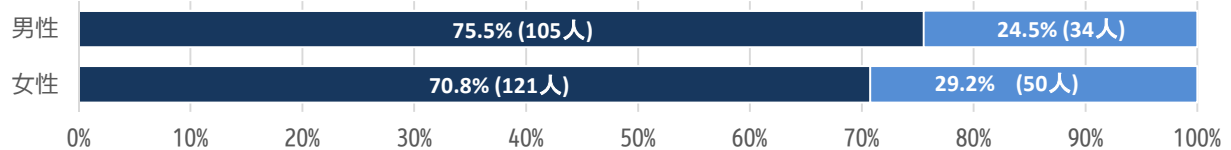


年代別



■ 行ったことがある ■ 行ったことがない

性別



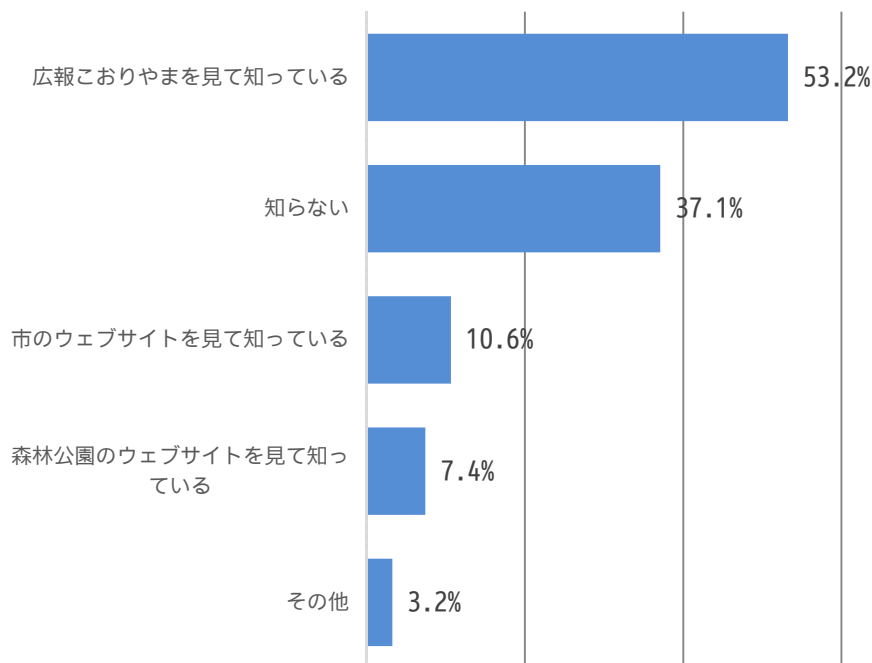
■ 行ったことがある ■ 行ったことがない

森林公園には約7割が行ったことがあり、認知度は高い。  
年齢が高くなるにつれて、認知度が高くなっている。

問7 あなたは、郡山市の森林公園で木工教室や森林の自然体験を行っているのを知っていますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
広報こおりやまを見て知っている	165人
知らない	115人
市のウェブサイトを見て知っている	33人
森林公園のウェブサイトを見て知っている	23人
その他	10人



「その他」の主な意見

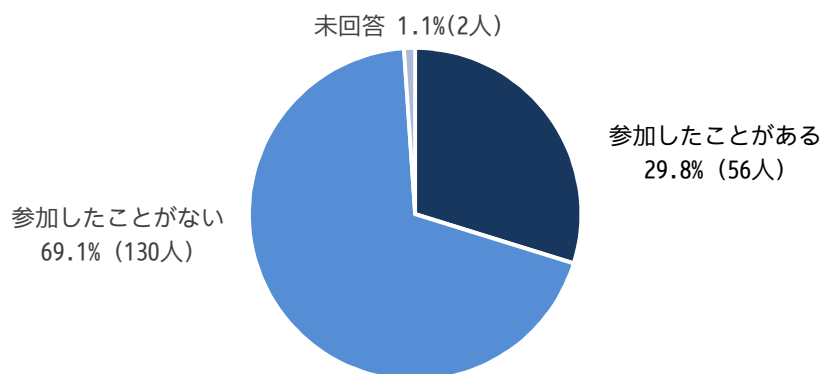
- ・公園の掲示板
- ・無料配布パンフレットを見て
- ・実際に行って体験した
- ・地域の紙面広報
- ・参加した知人にすすめられました
- ・近くなので教室を利用している

「広報こおりやまを見て知っている」が53.2%で最も多く、次いで「知らない」(37.1%)、「市のウェブサイトを見て知っている」(10.6%)の順であった。

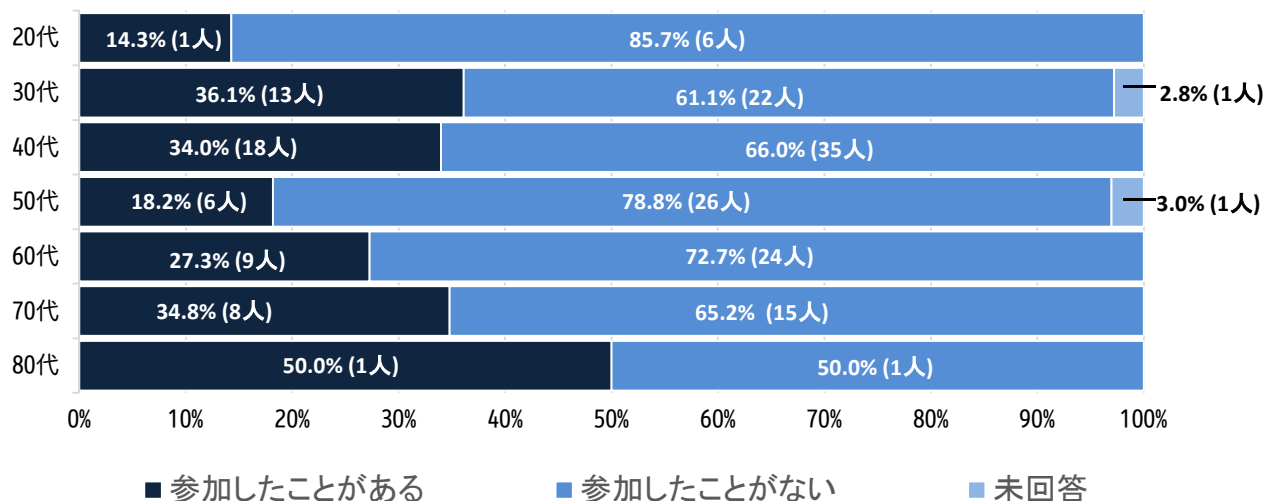
約4割の人が、森林公園で木工教室や森林の自然体験を行っているのを知らないため、「広報こおりやま」「ウェブサイト」以外の周知方法の検討が必要である。

問8 問7で「広報こおりやまを見て知っている」「市のウェブサイトを見て知っている」「森林公園のウェブサイトを見て知っている」を選択した方に伺います。あなたは、郡山市の森林公園で木工教室や森林の自然体験に参加されたことはありますか？（1つ選択）

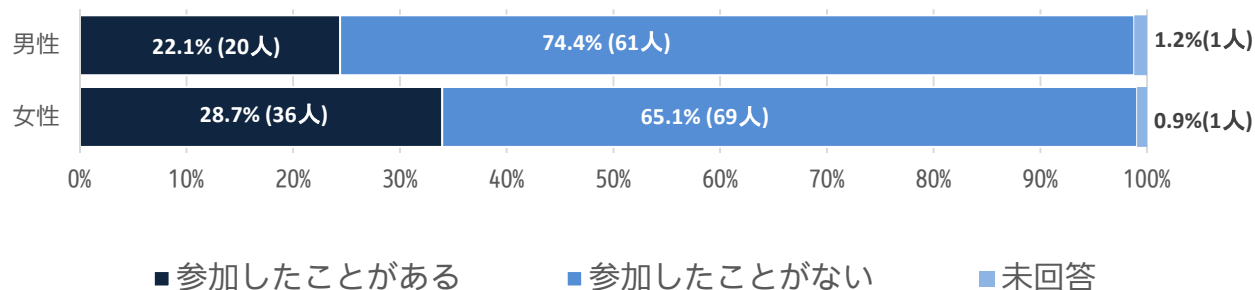
（回答者：188人）



年代別



性別



森林公園での木工教室や森林の自然体験に「参加したことがある」のは約3割となっている。

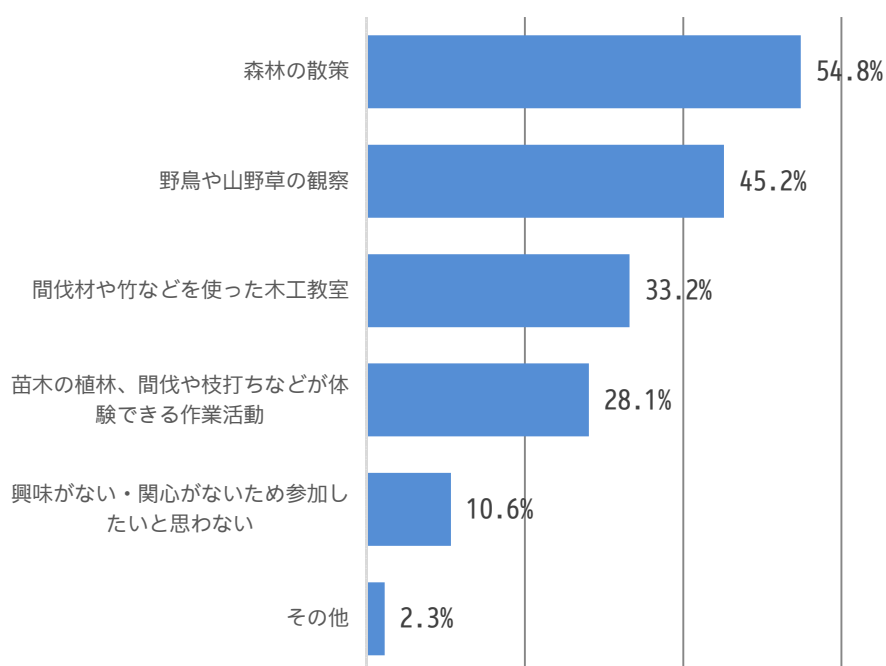
20代の参加割合は少ない。

30代～70代の参加割合は約2割～3割となっている。

問9 あなたは、森林・林業に関する活動などに参加する機会があれば、どのようなものに参加してみたいと思いますか？（複数選択）

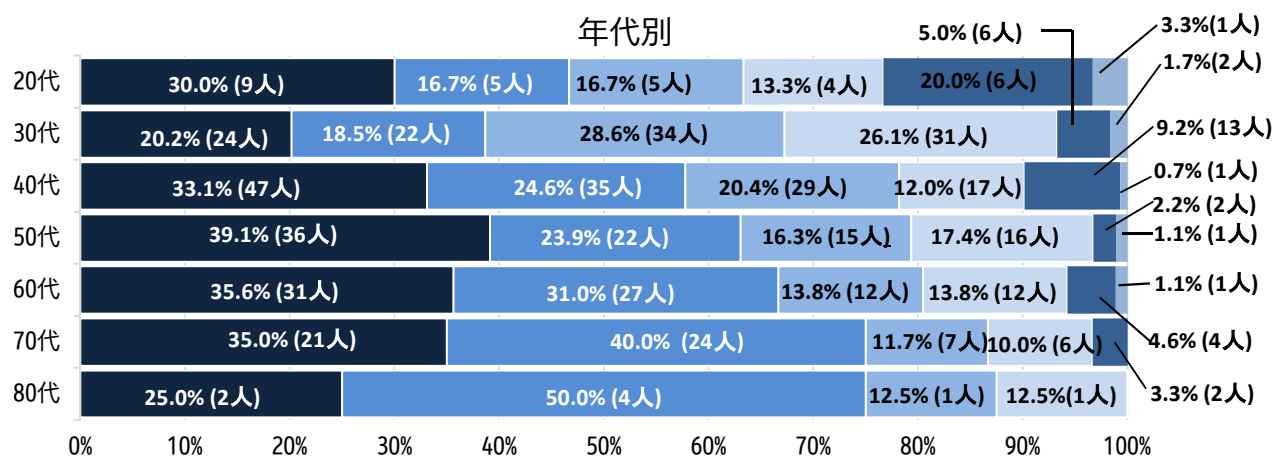
（回答者：310人）

選択肢	回答数
森林の散策	170人
野鳥や山野草の観察	140人
間伐材や竹などを使った木工教室	103人
苗木の植林、間伐や枝打ちなどが体験できる作業活動	87人
興味がない・関心がないため参加したいと思わない	33人
その他	7人

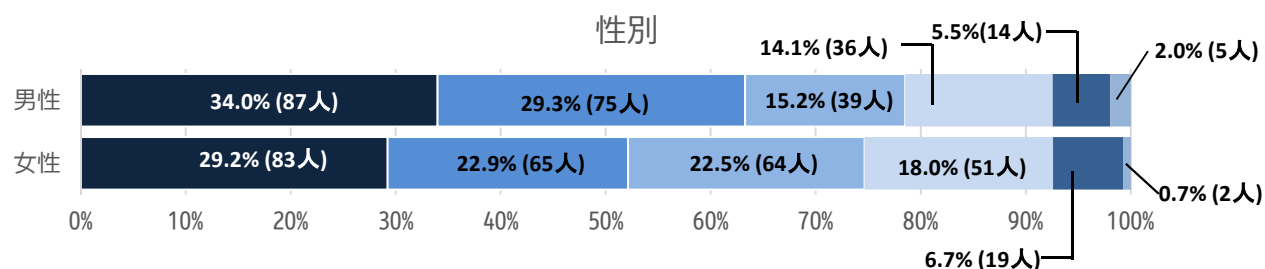


#### 「その他」の主な意見

- ・炭づくり
- ・私でなく子どもに参加させたい
- ・花粉症だから近づきたくない
- ・足場が確保できる場所なら参加してみたい



- 森林の散策
- 野鳥や山野草の観察
- 間伐材や竹などを使った木工教室
- 苗木の植林、間伐や枝打ちなどが体験できる作業活動
- 興味がない・関心がないため参加したいと思わない
- その他



- 森林の散策
- 野鳥や山野草の観察
- 間伐材や竹などを使った木工教室
- 苗木の植林、間伐や枝打ちなどが体験できる作業活動
- 興味がない・関心がないため参加したいと思わない
- その他

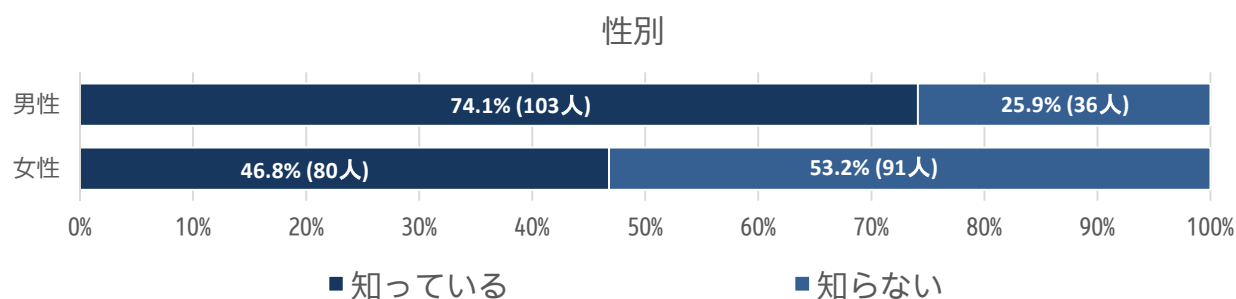
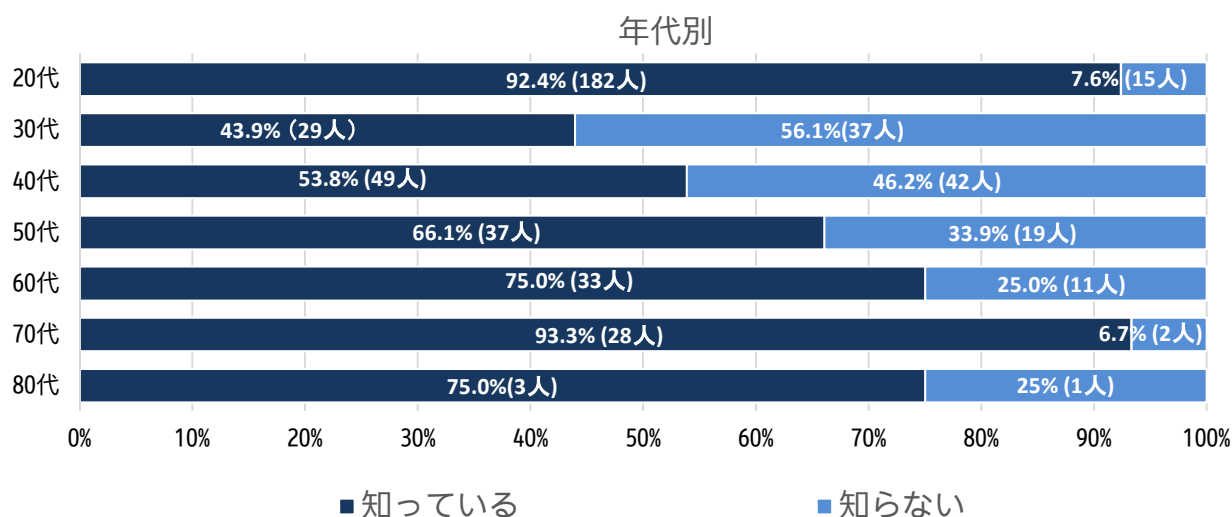
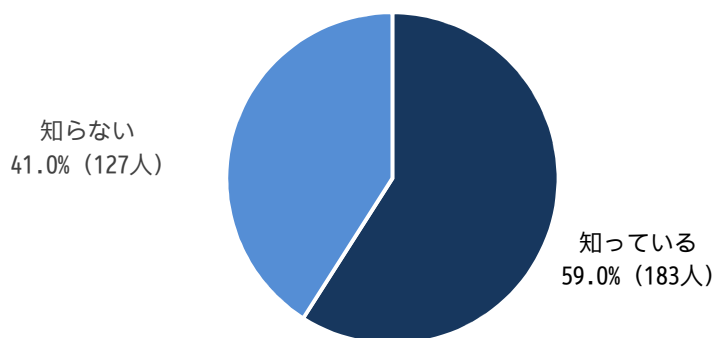
「森林の散策」が54.8%で最も多く、次いで「野鳥や山野草の観察」(45.2%)、「間伐材や竹などを使った木工教室」(33.2%)の順であった。

今年も森林公園で「森林ウォーキング」や「野鳥と山野草の観察会」「各種木工教室」等を行う予定であり、周知を図る必要がある。

年代別では、40代以上が「森林の散策」や「野鳥や山野草の観察」など森林に触れる活動を選択する方が半数以上であった。

問10 国内で消費される木材の約7割が外国産材ですが、国産材より外国産材の消費量が多いことを知っていますか？（1つ選択）

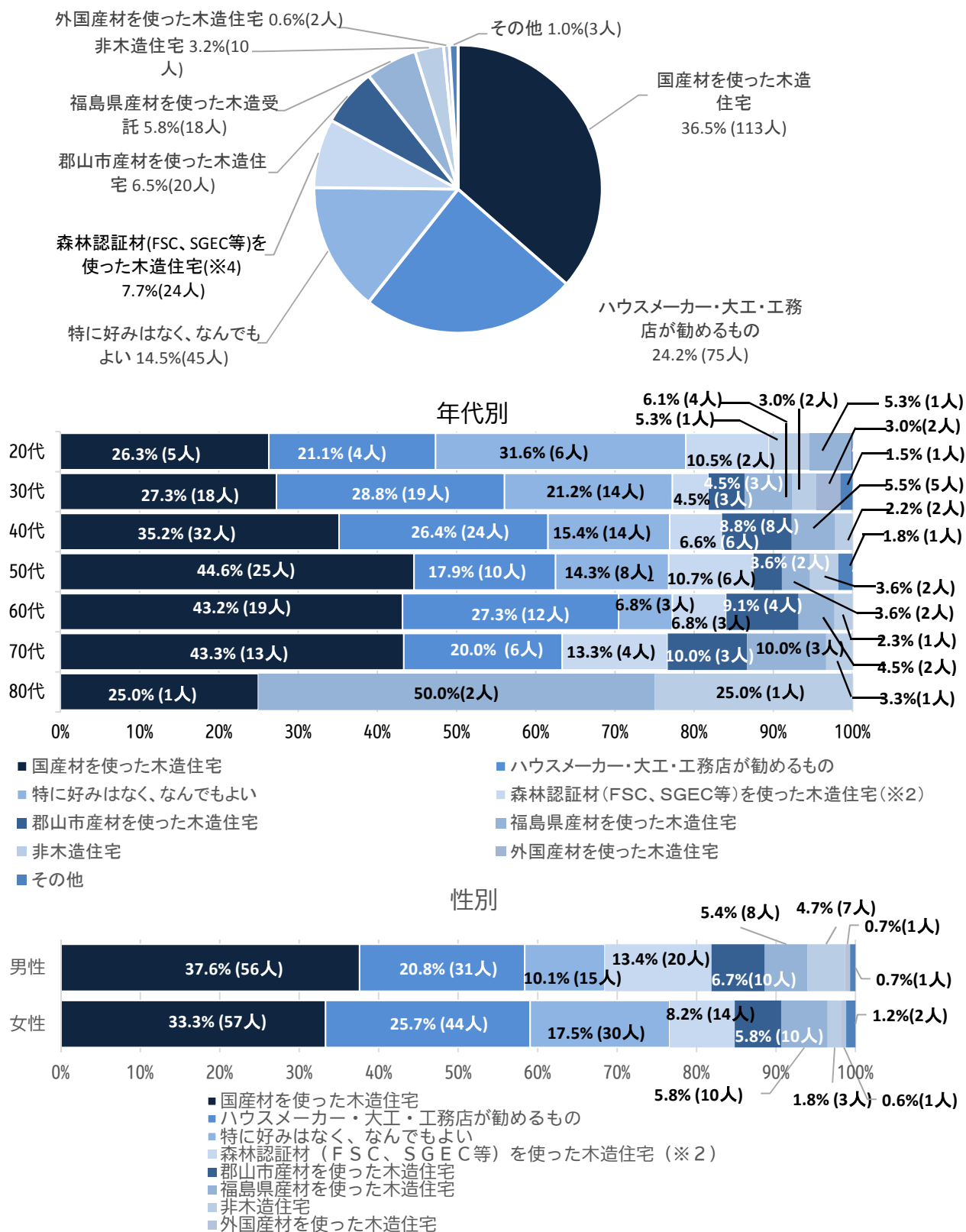
（回答者：310人）



国産材より外国産材の消費量が多いことを知っている人は、約6割となっている。  
 年代別では、70代が知っている割合が1番多く、続いて、20代、80代となっており、  
 20代、70代では、約9割以上の人知っている。  
 また、性別では、男性が7割以上の方が知っており、女性より27.3ポイント高い。

問11 今後、仮に戸建住宅を建てるか購入するとした場合、どのような住宅に住みたいですか？（1つ選択）

（回答者：310人）



※4 森林認証材とは、認証期間が一定の基準に基づき、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを審査・認証し、それらの森林から生産された木材を分別・表示したものの。

## 「その他」の主な意見

- ・価格
- ・体に無害なもの

今後、仮に戸建住宅を建てるか購入するとした場合、「国産材を使った木造住宅」を選択した方が約4割となっている。

年代があがるにつれて、「国産材を使った木造住宅」を選ぶ割合が多い。

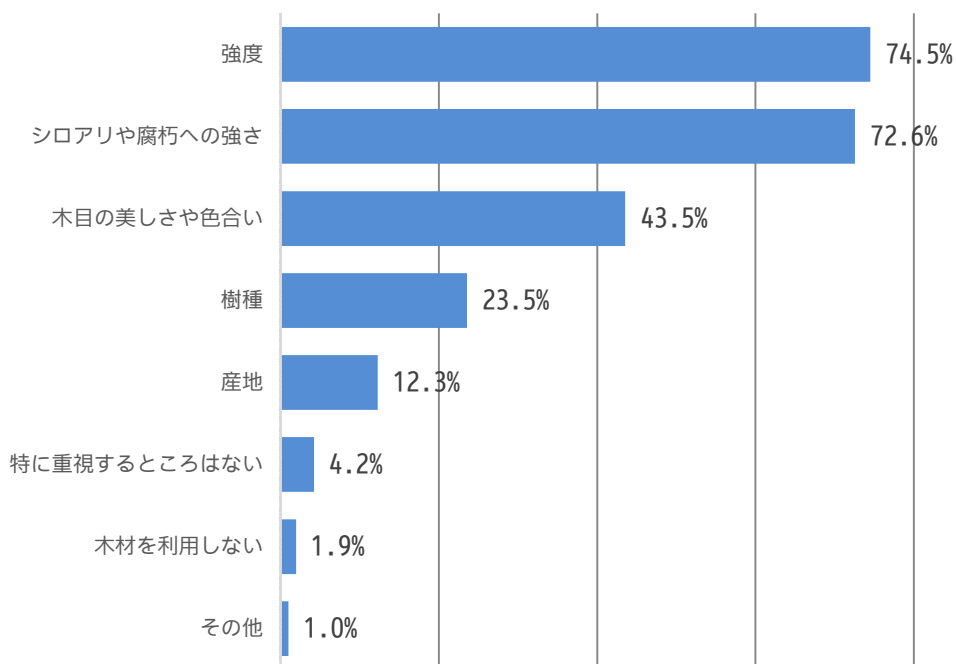
また、20代、30代では、「特に好みはなくなんでもよい」を選ぶ割合が多い。



問12 あなたが住宅に木材を利用する場合、価格以外で重視するポイントは何ですか？  
(複数選択)

(回答者：310人)

選択肢	回答数
強度	231人
シロアリや腐朽への強さ	225人
木目の美しさや色合い	135人
樹種	73人
産地	38人
特に重視するところはない	13人
木材を利用しない	6人
その他	3人



「その他」の主な意見

- ・価格
- ・体に無害なもの

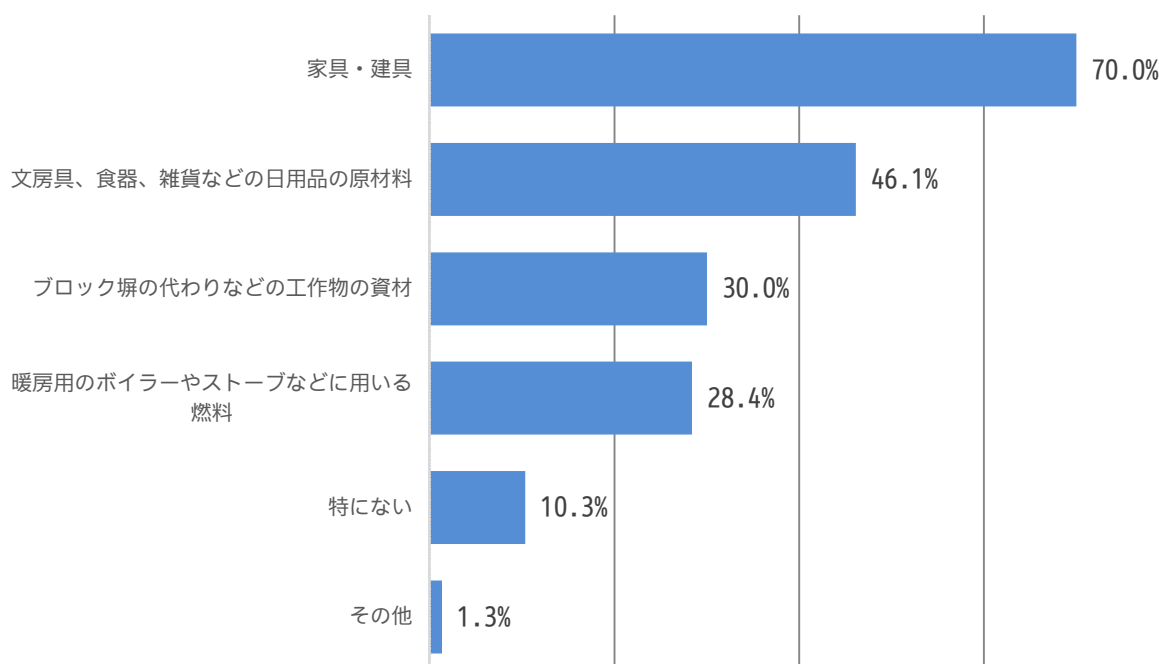
「強度」が74.5%で最も多く、次いで「シロアリや腐朽への強さ」(72.6%)、「木目の美しさや色合い」(43.5%)の順であった。

産地を重視する割合は、12.3%であり、周知が必要である。

問13 あなたは、今後、木材利用について、住宅の構造材用や製紙用以外に、どのような利用形態が増えることが望ましいと思いますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
家具・建具	217人
文房具、食器、雑貨などの日用品の原材料	143人
ブロック塀の代わりなどの工作物の資材	93人
暖房用のボイラーやストーブなどに用いる燃料	88人
特にない	32人
その他	4人



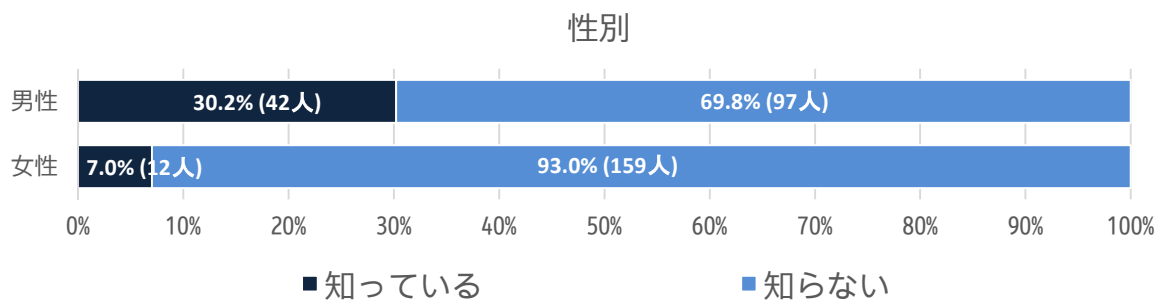
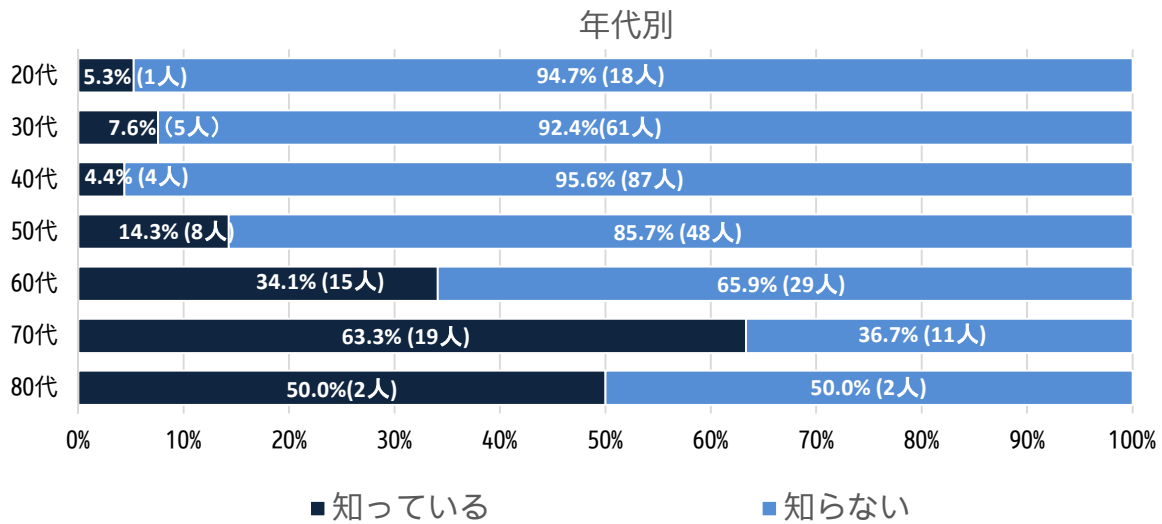
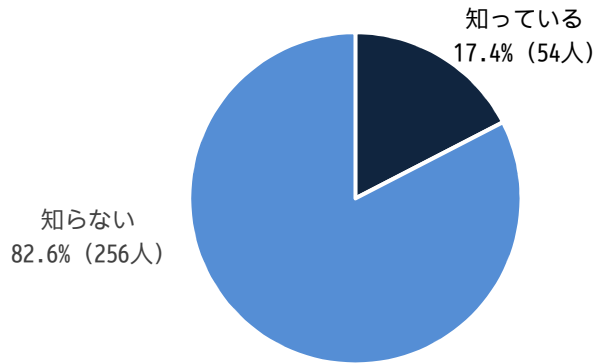
#### 「その他」の主な意見

- ・バイオマス発電
- ・炭による消費、浄水、健康への効用
- ・プラスチック製品の代替え
- ・おもちゃ

「家具・建具」が70.0%で最も多く、次いで「文房具、食器、雑貨などの日用品の原材料」(46.1%)、「ブロック塀の代わりなどの工作物の資材」(30.0%)の順であった。

【CLTについて】  
 問14 CLT（※3）という言葉を知っていますか？（1つ選択）

（回答者：310人）

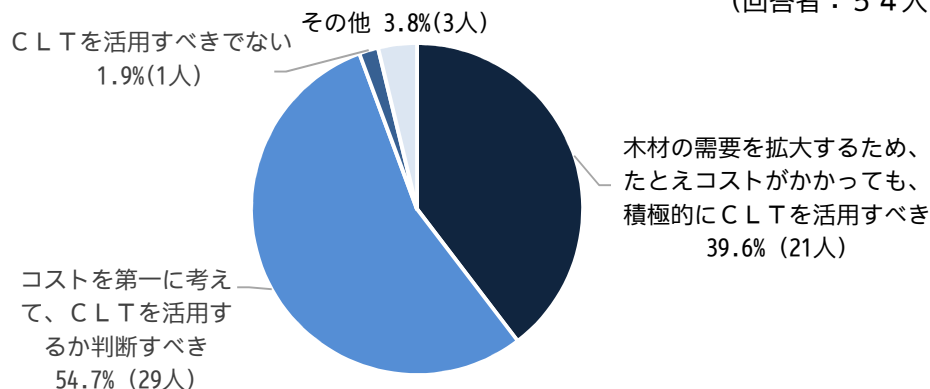


CLTという言葉を知っている方は、約2割となっている。  
 年代別では、70代、80代が半数以上が知っている。  
 20代～40代は、10%以下と知っている割合が少ない。  
 新たな工法であるCLTについてあまり知られていないため、今後、新たな木造需要を創出するために、国、県等と連携し普及活動を進めていく必要がある。

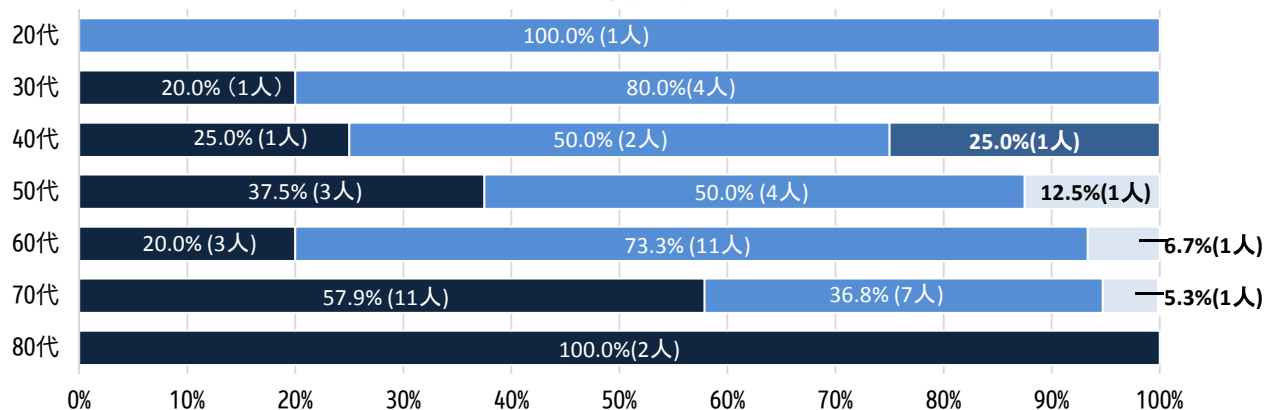
※3 CLT(直交集成板)とは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネルであり、既に欧米を中心に中高層建築物等に利用されています。我が国においても、中高層建築物等へのCLTの活用による新たな木材需要の創出が期待されています。

問15 問14で「知っている」を選択した方に伺います。公共建築物において、CLTをどのように活用すべきと考えますか？（1つ選択）

（回答者：54人）

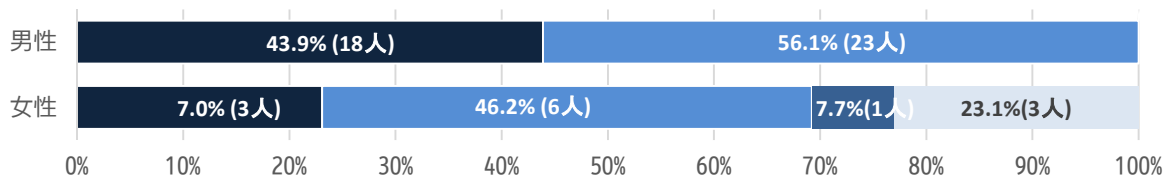


年代別



- 木材の需要を拡大するため、たとえコストがかかっても、積極的にCLTを活用すべき
- コストを第一に考えて、CLTを活用するか判断すべき
- CLTを活用すべきでない
- その他

性別



- 木材の需要を拡大するため、たとえコストがかかっても、積極的にCLTを活用すべき
- コストを第一に考えて、CLTを活用するか判断すべき
- CLTを活用すべきでない
- その他

CLTの活用については、「コストを第一に考えて、CLTを活用するか判断すべき」が約54%と最も多い。

年代別では、70代、80代が「木材の需要を拡大するため、たとえコストがかかっても、積極的にCLTを活用すべき」が多くなっている。

問16 問15で「CLTを活用すべきでない」を選択した方に伺います。CLTを活用すべきでない理由は何故ですか？具体的に記入してください。

#### 具体的な主な意見

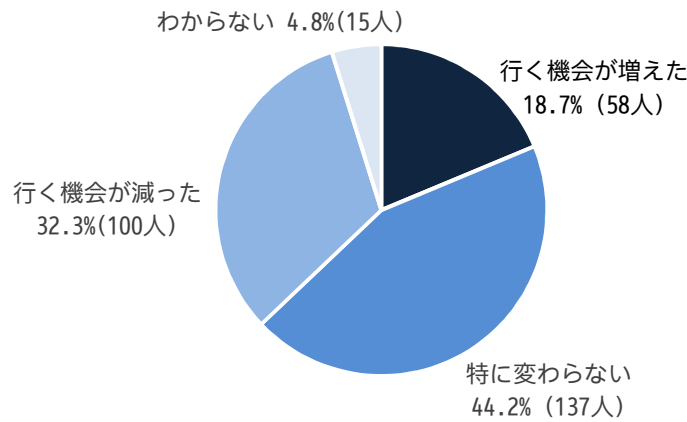
- ・やはり木材なので、出火した場合には、火のまわりが早いのではないか？と思う。

CLT工法を用いた耐火外壁は、現在、開発・研究されており、その研究結果等について、注視していく必要がある。

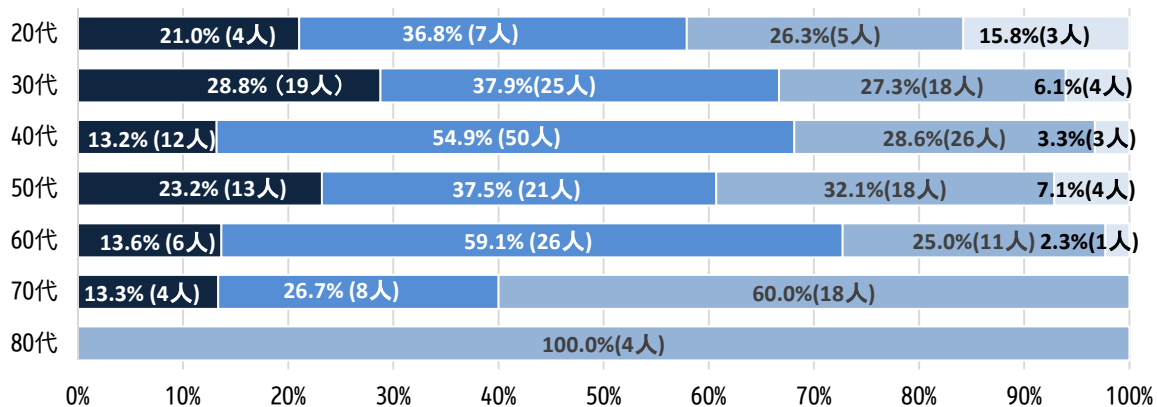
【森林・木材の利用の変化】

問17 日常生活の中で、あなたは、約10年前の生活と比べ、森林（山・森・林・森林公園など）に行く機会に変化はありましたか？（1つ選択）

（回答者：310人）

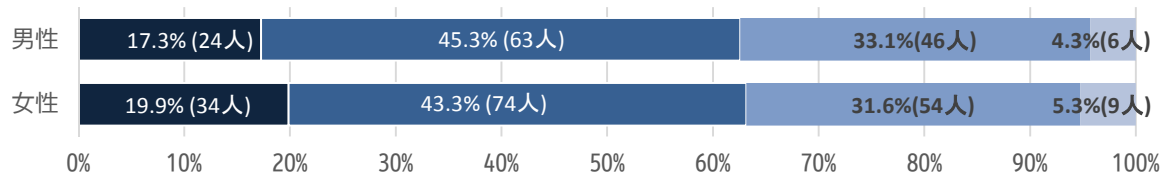


年代別



■ 行く機会が増えた ■ 特に変わらない ■ 行く機会が減った ■ わからない

性別



■ 行く機会が増えた ■ 特に変わらない ■ 行く機会が減った ■ わからない

約10年前の生活と比べ、森林（山・森・林・森林公園など）に行く機会は、「特に変わらない」が約4割と一番多く、続いて「行く機会が減った」が約3割と多かった。年代別では、20代から60代にあまり変化はない。70代、80代では、「行く機会が減った」が多くなっている。

問18 問17で「行く機会が増えた」「行く機会が減った」を選択した方に伺います。あなたは、約10年前の生活と比べ、森林（山・森・林・森林公園など）に行く機会に変化があったのは何故ですか？具体的に記入してください。

#### 具体的な主な意見

##### ○行く機会が増えた

- ・子供ができて、自然に触れさせたいと思ったから。
- ・気分転換やストレス解消で散歩をする機会が増えた。
- ・登山に興味を持つようになったから。
- ・退職により自由時間が多くなったことによる増加。

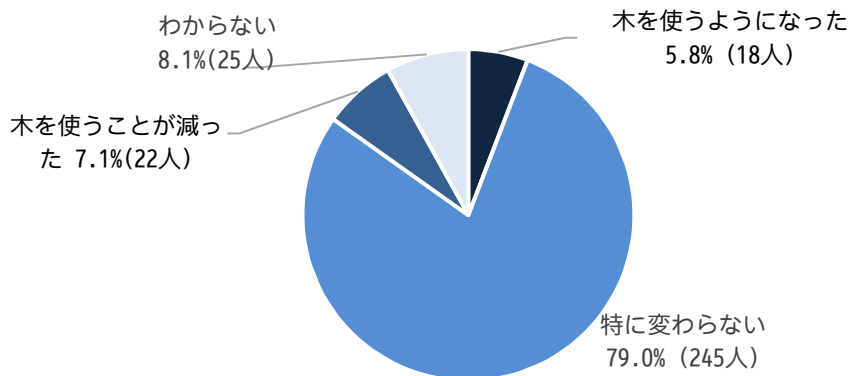
##### ○行く機会が減った

- ・高齢化になったため。
- ・放射線量が気になってきた。行く機会が無くなってきた。
- ・学校の行事で参加していたから。
- ・家族構成の変化で、一緒に行く者がいない。
- ・仕事が忙しいため。
- ・子どもが大きくなって、行く機会がなくなった。

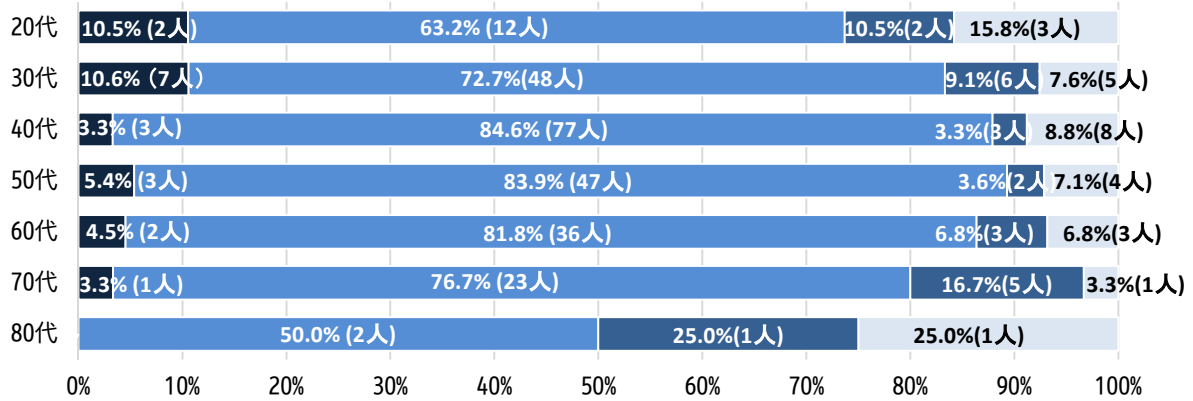
家族形態の変化による時間の使い方の変化により、森林に行く機会の変化がみられる。「子供の影響」を理由にあげる意見が多かった。

問19 あなたは、約10年前の生活と比べ、木の利用について変化はありましたか？  
(1つ選択)

(回答者：310人)

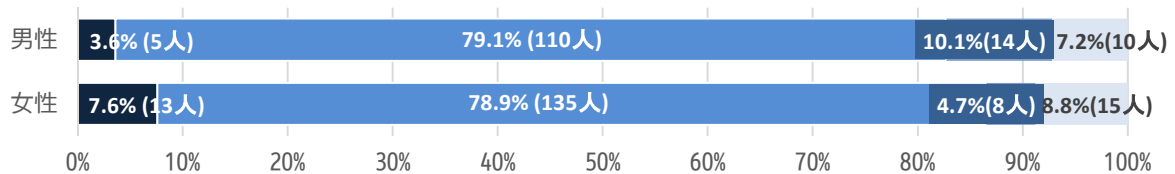


年代別



■ 木を使うようになった ■ 特に変わらない ■ 木を使うことが減った ■ わからない

性別



■ 木を使うようになった ■ 特に変わらない ■ 木を使うことが減った ■ わからない

約10年前の生活と比べ、木の利用について「特に変わらない」が約8割となっている。  
年代別では、20代から70代にあまり変化はない。  
80代では、「木を使うことが減った」が、20代から70代に比べ多くなっている。  
性別による違いはなかった。



問20 問19で「木を使うようになった」「木を使うことが減った」を選択した方に伺います。あなたは、約10年前の生活と比べ、木の利用について変化があったのは何故ですか？

#### 具体的な主な意見

○木を使うようになった。

- ・薪ストーブを使うようになったから。
- ・木のぬくもりや肌触りなどを好むようになった。
- ・子どもができて、木でできたおもちゃを使っている。
- ・木を使って木工の趣味を続けています。

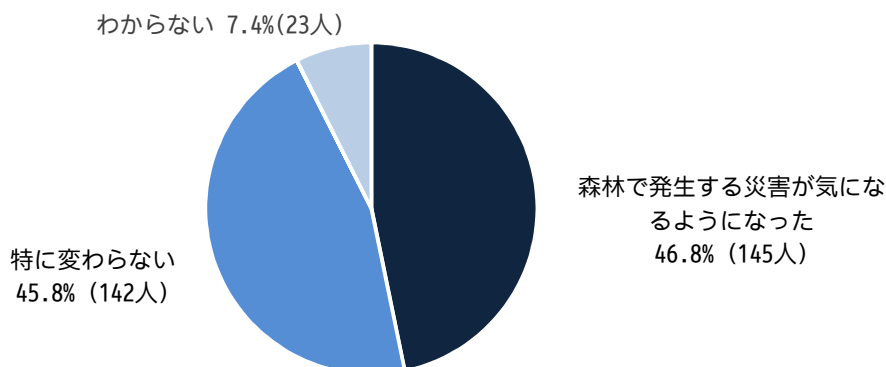
○木を使うことが減った

- ・割り箸をあまり使わなくなったから。
- ・子どもの頃は風呂が木材を燃やして沸かす木風呂だった。

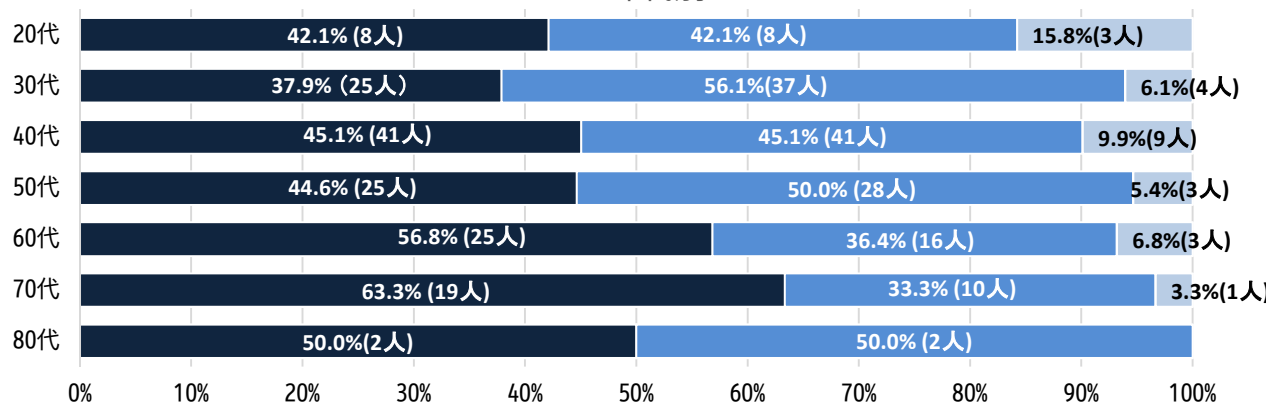
燃料や趣味の変化により、木の利用の変化がみられる。

問21 あなたは、約10年前の生活と比べ、豪雨等により森林で発生する災害が気になるようになりましたか（1つ選択）

（回答者：310人）

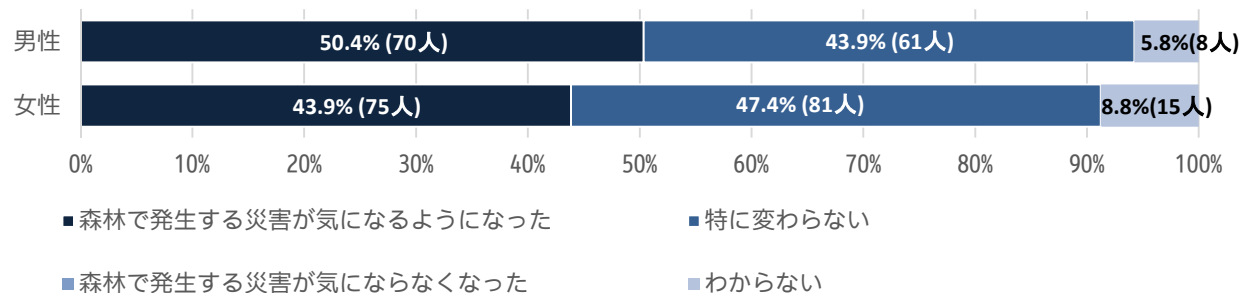


年代別



■ 森林で発生する災害が気になるようになった ■ 特に変わらない ※ 森林で発生する災害が気にならなくなった ■ わからない

性別



■ 森林で発生する災害が気になるようになった ■ 特に変わらない  
■ 森林で発生する災害が気にならなくなった ■ わからない

約10年前の生活と比べ、「森林で発生する災害が気になるようになった」が約5割となった。

年代別に関わらず、20代から80代まで「森林で発生する災害が気になるようになった」が約5割となった。

性別による違いはなかった。

問22 問21で「森林で発生する災害が気になるようになった」「森林で発生する災害が気にならなくなった」を選択した方に伺います。  
あなたは、約10年前の生活と比べ、豪雨等により森林で発生する災害が気になるようになった、または気にならなくなったのは何故ですか？

#### 具体的な主な意見

- 森林で発生する災害が気になるようになった。
  - ・災害のニュースを見るようになった。
  - ・間伐をやっていない所が多く目につく。
  - ・最近季節により山火事が発生したり、放火等により火事が発生するニュースを見て。

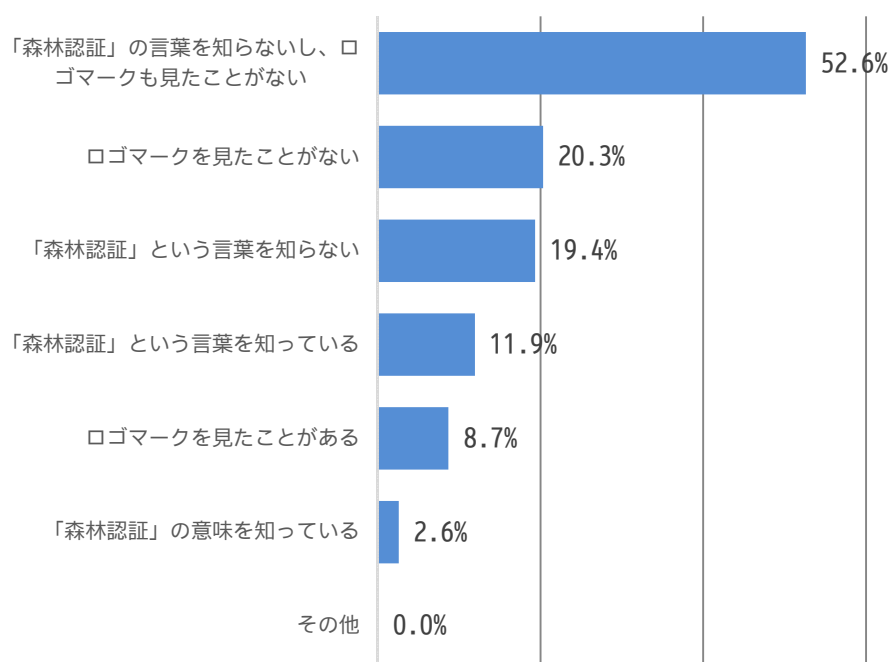
ニュースにより災害が気になるようになったという意見が多い。

【森林・木材の利用の変化】

問23 森林認証（※2）という言葉の意味やロゴマークを知っていますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
「森林認証」の言葉を知らないし、ロゴマークも見ることがない	163人
ロゴマークを見ることがない	63人
「森林認証」という言葉を知らない	60人
「森林認証」という言葉を知っている	37人
ロゴマークを見ることがある	27人
「森林認証」の意味を知っている	8人
その他	0人



「森林認証」の言葉を知らないし、ロゴマークも見ることがないが52.6%で最も多く、次いでロゴマークを見ることがない(20.3%)、「森林認証」という言葉を知らない(19.4%)の順であった。

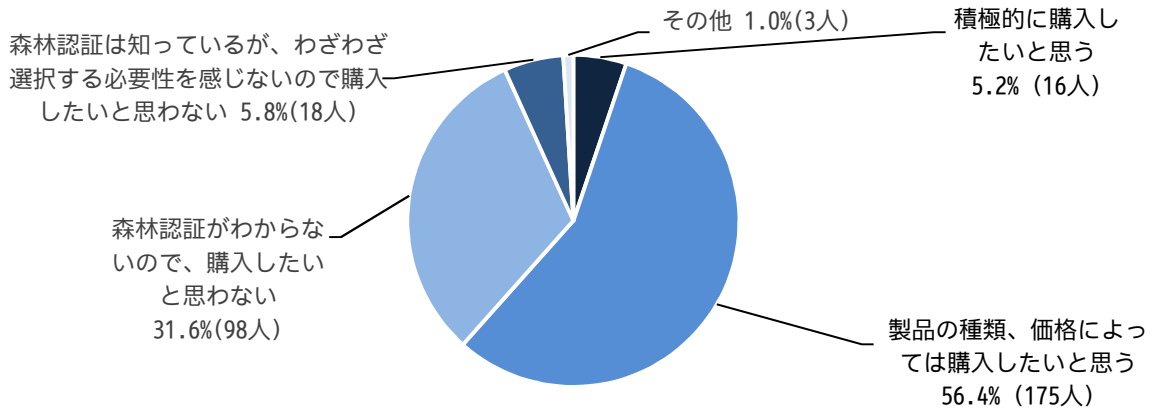
ロゴマークを見ることがある、「森林認証」の意味を知っている人は10%以下となっている。

新たな制度である森林認証についてあまり知られていないため、今後、新たな木造需要を創出するために、国、県等と連携し普及活動を進めていく必要がある。

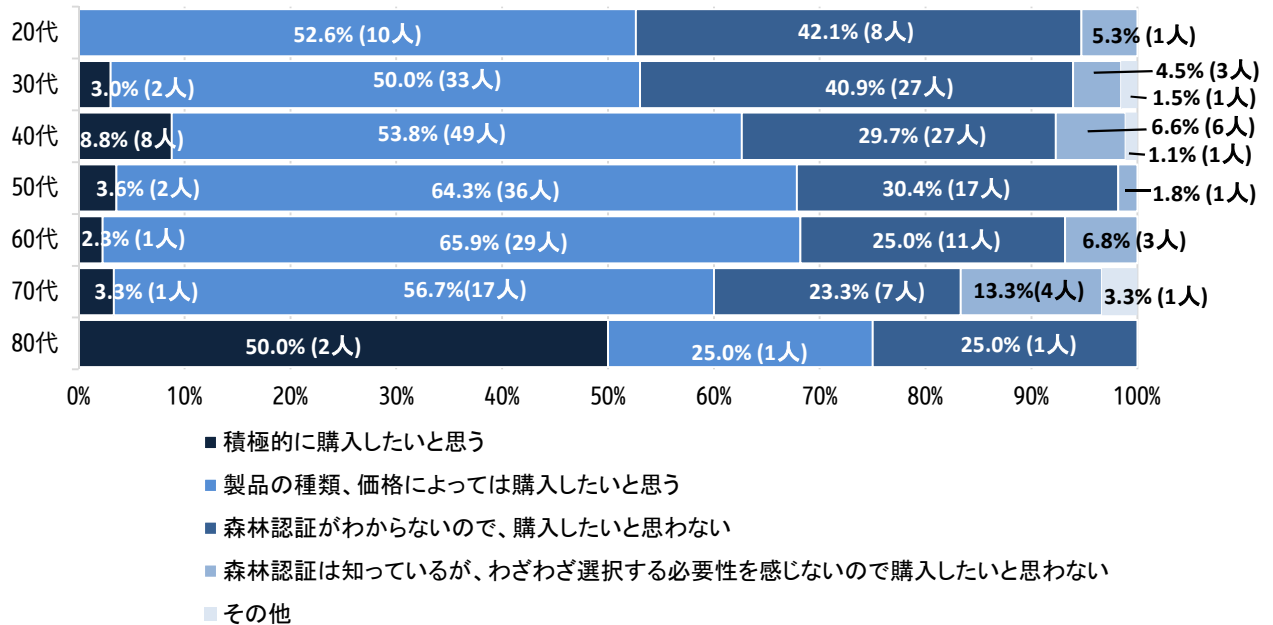
※2 森林認証とは、認証機関が一定の基準に基づき、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを審査・認証し、それらの森林から生産された木材・木材製品を分別し表示・管理することにより、消費者の選択的な購入を通じて、持続可能な森林経営を支援する取組

## 問24 森林認証の製品を購入したいと思いますか？（1つ選択）

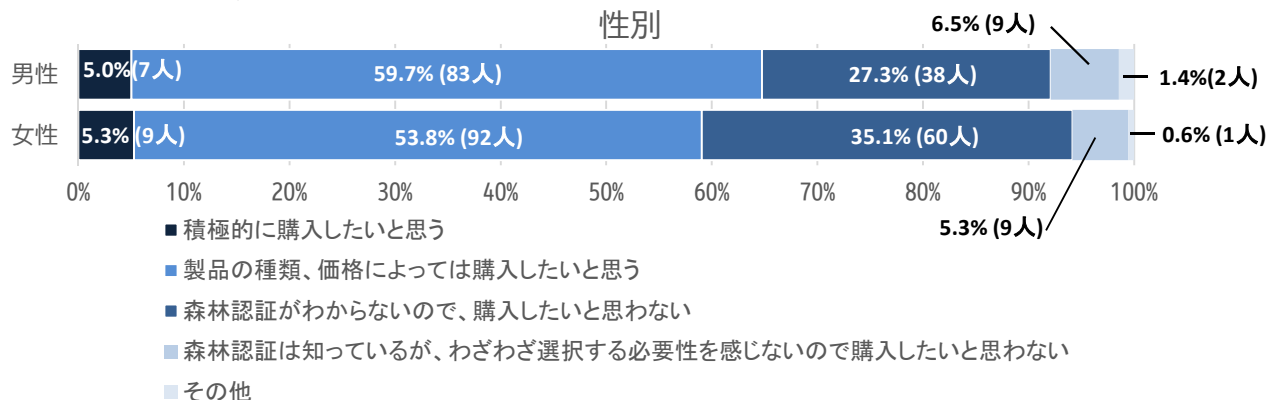
（回答者：310人）



### 年代別



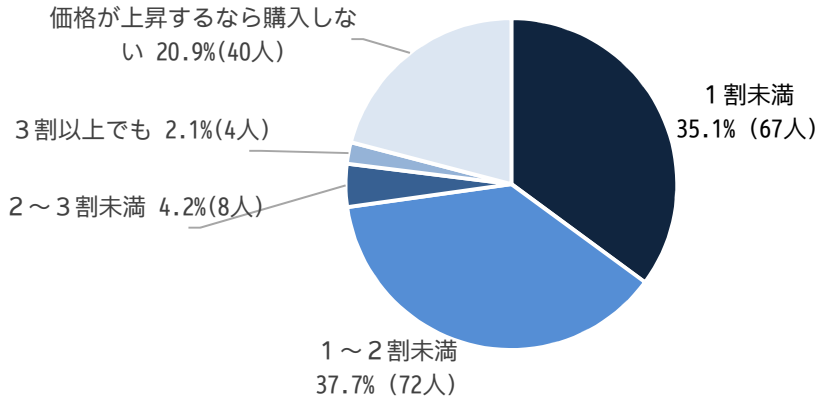
### 性別



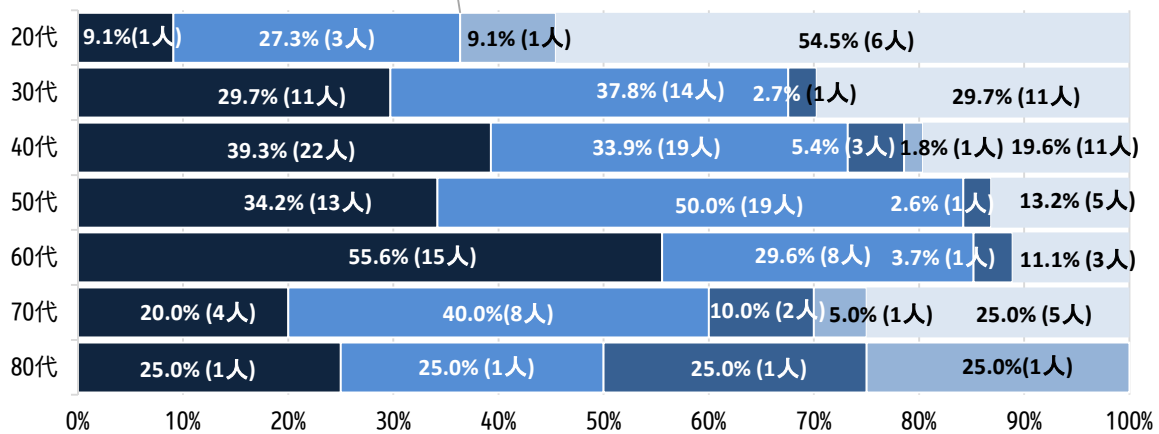
森林認証の製品は、「製品の種類、価格によっては購入したいと思う」が最も多いが、「森林認証がわからないので、購入したいと思わない」が約3割となっている。年代別に関わらず「製品の種類、価格によっては購入したいと思う」が約5割から6割となっている。性別による違いはみられない。

問25 問24で「積極的に購入したいと思う」「製品の種類、価格によっては購入したいと思う」を選択した方に伺います。  
 森林認証の製品を購入する場合、森林認証することによって、どの程度までの価格上昇までなら購入しますか？森林認証の製品を購入したいと思いませんか？  
 (1つ選択)

(回答者：191人)

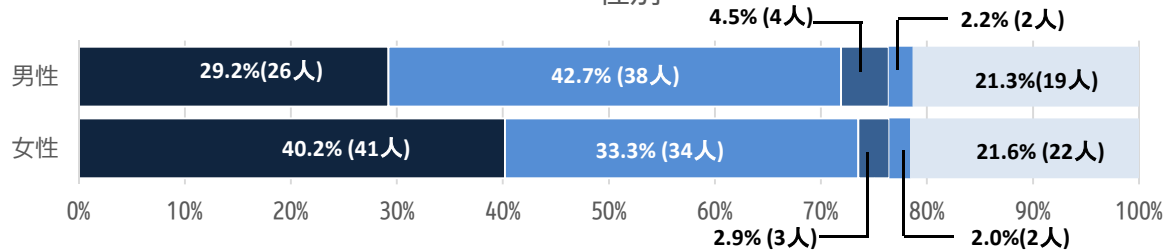


年代別



■ 1割未満 ■ 1～2割未満 ■ 2～3割未満 ■ 3割以上でも ■ 価格が上昇するなら購入しない

性別



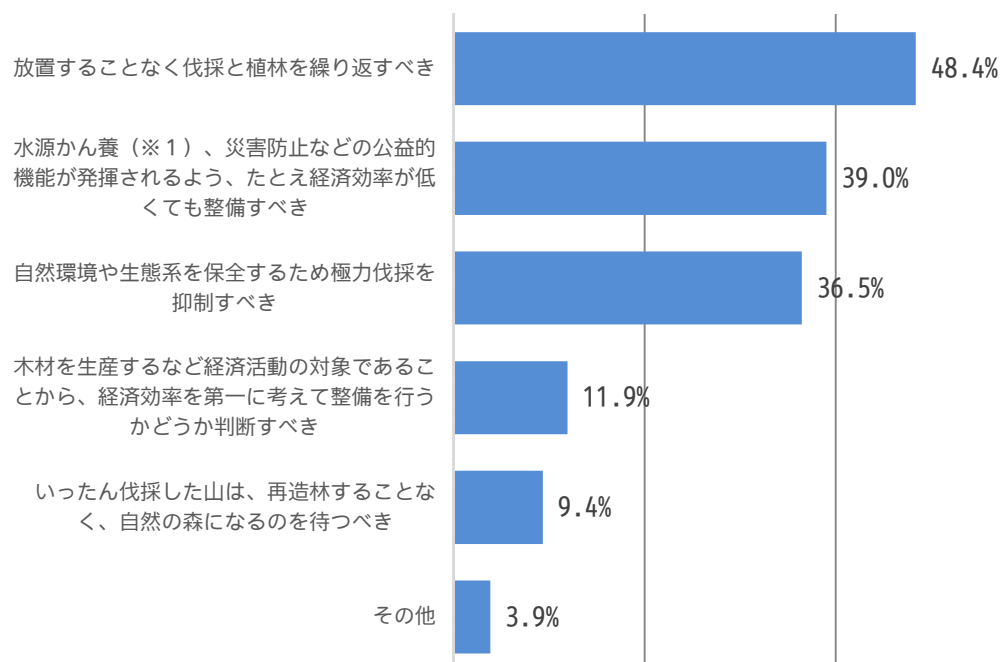
■ 1割未満 ■ 1～2割未満 ■ 2～3割未満 ■ 3割以上でも ■ 価格が上昇するなら購入しない

森林認証の製品は、「1～2割未満」の価格の上昇までなら購入したいと思うがもっとも多く、続いて「1割未満」が多い。  
 年代別では、20代が「価格が上昇するなら購入しない」が約5割となっている。  
 性別では、女性が男性より11ポイント高かった。

問26 郡山市内の森林（山・森・林・森林公園）を、今後どのようにすべきと考えますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
放置することなく伐採と植林を繰り返すべき	150人
水源かん養（※1）、災害防止などの公益的機能が発揮されるよう、たとえ経済効率が低くても整備すべき	121人
自然環境や生態系を保全するため極力伐採を抑制すべき	113人
木材を生産するなど経済活動の対象であることから、経済効率を第一に考えて整備を行うかどうか判断すべき	37人
いったん伐採した山は、再造林することなく、自然の森になるのを待つべき	29人
その他	12人



「その他」の具体的な主な意見

- ・ 経済目的の針葉樹ではなく、自然保護の為の広葉樹を植え生態系を守るべき。
- ・ 国民病と言われる花粉症、スギの花粉を抑える品種改良などなしには、植林は手放しでは喜ばない。
- ・ きちんとした除染とその検証・管理。

「放置することなく伐採と植林を繰り返すべき」（48.4%）で最も多く、次いで「水源かん養（※1）、災害防止などの公益的機能が発揮されるよう、たとえ経済効率が低くても整備すべき」の順であった。

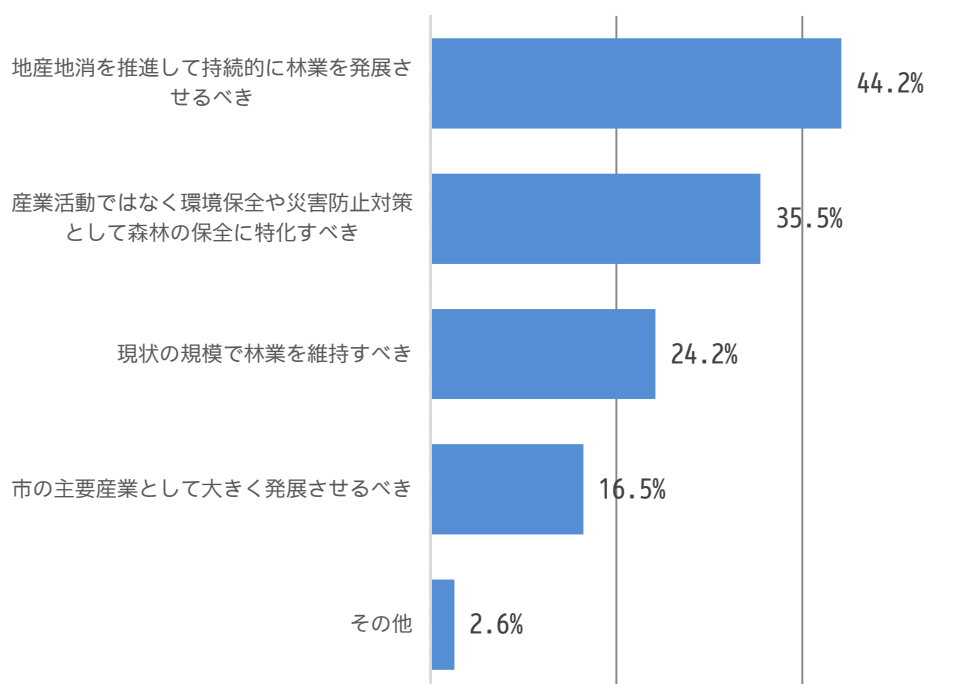
半数以上の人々が、郡山市の森林の今後について「放置することなく伐採と植林を繰り返すべき」と考えている。

※1 水資源貯留・水質浄化・洪水緩和をする機能

問27 今後、郡山市の林業（主として、樹木を伐採することにより木材を生産する産業）や関連産業をどうすべきと思いますか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
地産地消を推進して持続的に林業を発展させるべき	137人
産業活動ではなく環境保全や災害防止対策として森林の保全に特化すべき	110人
現状の規模で林業を維持すべき	75人
市の主要産業として大きく発展させるべき	51人
その他	8人



「その他」の具体的な主な意見

- ・経済効果や産業活動を市として考えているのなら違和感がある。
- ・きれいごとかも知れませんが、推進も保全も、バランスよくだと思います。行き過ぎない程度に。
- ・よく分からない

「地産地消を推進して持続的に林業を発展させるべき」（44.2%）で最も多く、次いで「産業活動ではなく環境保全や災害防止対策として森林の保全に特化すべき」の順であった。

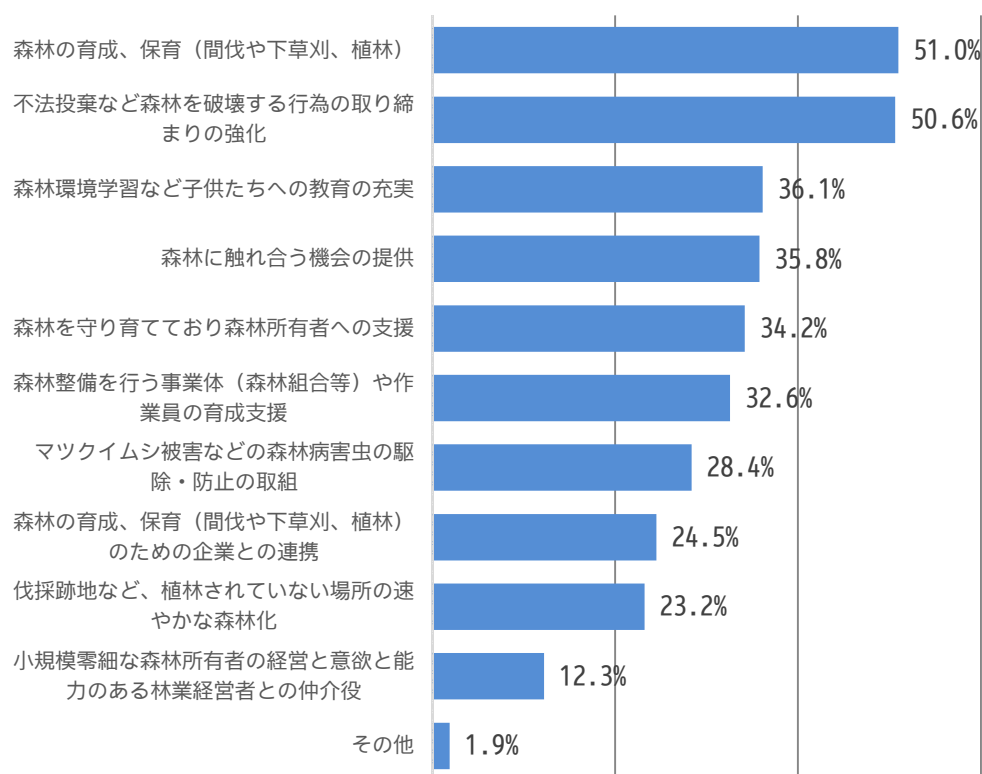
半数近くの人が、郡山市の林業や関連産業は「地産地消を推進して持続的に林業を発展させるべき」と考えている。



問28 あなたが今後、郡山（山・森・林・森林公園など）・林業等に関して、市に特に力を入れて欲しいと思うことは何ですか？（複数選択）

（回答者：310人）

選択肢	回答数
森林の育成、保育（間伐や下草刈、植林）	158人
不法投棄など森林を破壊する行為の取り締まりの強化	157人
森林環境学習など子供たちへの教育の充実	112人
森林に触れ合う機会の提供	111人
森林を守り育てており森林所有者への支援	106人
森林整備を行う事業体（森林組合等）や作業員の育成支援	101人
マツクイムシ被害などの森林病虫害の駆除・防止の取組	88人
森林の育成、保育（間伐や下草刈、植林）のための企業との連携	76人
伐採跡地など、植林されていない場所の速やかな森林化	72人
小規模零細な森林所有者の経営と意欲と能力のある林業経営者との仲介役	38人
その他	6人



「その他」の具体的な主な意見

- ・ 伐採などでサルや熊などの動物が下りてくることで被害がでてしまう事への対策
- ・ 木材関係産業・事業の後継者の確保
- ・ きちんとした除染とその検証・管理
- ・ 花粉対策

「森林の育成、保育（間伐や下草刈、植林）」（51.0%）で最も多く、次いで「不法投棄など森林を破壊する行為の取り締まりの強化」の順であった。

半数以上の方が、「森林の育成、保育（間伐や下草刈、植林）」、「不法投棄など森林を破壊する行為の取り締まりの強化」に力をいれて欲しいと考えている。

## 自由意見

### ○森林公園について

- もっと森林公園等でのイベントを多くすることで、市民が公園等に目を向け、関心を持つことに力を注ぐべきで、身近な山、森、公園にしていきたい。森林整備が極めて重要。綺麗で清々しい公園、山、森が自然と足を向かせる。
- 国産、地元産の木材を使う事はコストの面で合わない事を知っているし、自分が住宅を建てる時にもコスト問題は切り離せないの、実際に建築材として使用を増やすのは難しいと思う。ただ、今後の地球環境を守ったり、自然の大切さを学ぶ必要は有ると思うので、森林を保全し、市民が森林に親しむ機会を設けるのは大切だと思う。森林内でのキャンプ、そして、樹木の名前や知識を学んだり、薪割体験、薪での料理、薪で沸かした風呂の入浴など、現代人が意外と求めている事だと思う。実際、今はキャンプブームです。特に一人キャンプ、冬キャンプ。
- 森林等を利用した、レクリエーションのできる場所をもっと多くして欲しいですね。又、駐車場完備もお願いしたい。又、公共交通機関もあると良いですね。
- 知識がないことを実感しました。以前は、郡山にある山の木々をみて、伐採して利用すれば儲かりそうなのにと感じてましたが地球温暖化や震災対策のメリットもあると知りわからなくなりました。土地の半分以上を山、木で占めるなら、郡山の良いところを聞かれた時に、「自然が多い、体感できる」と答えたいです。森林公園がどれなのかもわからないし、知識がない状態で山に入るのは怖い。森林伐採や木材利用のメリットデメリット、森林公園の特集など、もっと情報があれば嬉しいです。個人的には、木造住宅も好きだし、木材利用の小物も大好きです。

### ○森林環境学習について

- 森林伐採され、山が切り崩されている場所を見ると悲しい気持ちになります。子ども達にも、森林の大切さを学ぶ機会をもっと増やして貰えたら嬉しいです。
- 環境の保持面で森林の果たす役割は大きい。開発ばかりではなく、区域を定めて一定の割合は開発抑制することが大事。教育の観点からも植物、動物の学習に利するので森林公園等、身近で安全に自然に触れ合える施設を作るのは意義があります。災害の被害軽減の面からも、豊かな森林を育むことが大事。最近、山の保水力がなくなっているということを知ります。植林や砂防などの対策をしていき、中山間部と市街地が共存できるようにしていくことが大事です。

### ○担い手づくりについて

- 山登りを始めてから、山林に目がいくようになりました。登山道の整備や、植林も広く市民に呼びかけて担い手を増やしたり体験できる機会を作ってはいかがでしょうか。
- 森林保護、整備等のボランティアの募集、育成をする。

### ○森林イベントのPRについて

- 郡山は、豊富な森林に恵まれていますので、自治体を含め、市民にどのようなものが参加型であるか、もっとPRしたらいいと思います。